

平成 31(2019)年度

シラバス

- 1 年次 -

科目№	BCS01-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	心理学		担当教員	土元 哲平		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	人文科学系		必 修	2 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	日常生活場面で生じる人間の心理について学習することで、人間の基本的な心理メカニズムの理解ができるように講義を進める。これにより、対人援助に必要な知見を習得し、医療従事者間や援助要請者とのより良い関係性を築く方法を理解し、現場で応用できることを目指す。					
学修目標 到達目標	1. 心理学の基礎的な知識を習得し、理解・説明することができる 2. 日常生活場面で遭遇するさまざまな事象について、心理学の観点から解釈することができる 3. 対人援助に必要なコミュニケーションや支援について、心理学の知識を応用できる					
授業形態 授業の進め方	パワーポイントを中心とした講義を実施します。毎講義後に、コミュニケーション・ペーパーを配布し、意見や質問ができるように配慮します。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. イントロダクション 心理学とは？			次回に向けて指定された課題を予習する。			
2. 臨床心理学①：精神分析、行動主義、人間性心理学			〃			
3. 臨床心理学②：心理療法、アセスメント			〃			
4. 発達心理学①：遺伝と環境、認知発達理論、思考と言語の発達			〃			
5. 発達心理学②：アイデンティティ、身体・運動機能の発達			〃			
6. 社会心理学①：コミュニケーション、説得、対人魅力			〃			
7. 社会心理学②：集団行動、場と集団、リーダーシップ			〃			
8. 知覚心理学：形の知覚、運動の知覚、アフォーダンス			〃			
9. 自己の心理学：自己の中の他者、自己理解、自己変容			〃			
10. 記憶の心理学：記憶の特徴とモデル			〃			
11. 注意の心理学：選択的注意、認知バイアス			〃			
12. 学習の心理学：条件付け、社会的学習			〃			
13. 厚生心理学：QOL、当事者研究、対人援助			〃			
14. 現代社会と心理学						
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	毎回の授業の理解の確認のために小テストを実施する。		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
参考文献	サトウタツヤほか	「心理学・入門」		有斐閣		2011
	サトウタツヤほか	「心理学スタンダード」		ミネルヴァ書房		2014
履修要件等	特になし					
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける		

科目No.	BCS02-1E		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	医療倫理学		担当教員	吉本 陵		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	人文科学系		選択必修	2 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	医療現場における倫理的な問題について論理的に思考する訓練を行う。					
学修目標 到達目標	1. 自分の考えを整理し、表現する方法を学ぶ。 2. 倫理学の基礎を学び、自分の言葉で説明できるようになる。 3. 医療倫理学の個別テーマの問題を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。					
授業形態 授業の進め方	講義形式を基本とし、適宜グループワークを組み込む。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. ガイダンス・イントロダクション			医療現場における倫理的問題の具体例を調べる。			
2. 論理的に考えるということ 1：考えを整理する			授業の内容を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。			
3. 論理的に考えるということ 2：考えと考えをつなげる			授業の内容を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。			
4. 倫理学の基礎 1：倫理学の考え方			倫理学の考え方を復習し、自分の言葉で説明できるようになる。			
5. 倫理学の基礎 2：義務論と功利主義			義務論・功利主義について自分の言葉で説明できるようになる。			
6. 出生前検査・診断 1：出生前検査・診断とは何か			出生前検査・診断の概略を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。			
7. 出生前検査・診断 2：出生前検査・診断の現状			出生前検査・診断が家族にもたらす葛藤を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。			
8. 出生前検査・診断 3：出生前検査・診断の倫理的問題			出生前検査・診断がはらむ倫理的問題を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。			
9. 尊厳死をめぐるいのちの対話 1：尊厳死とは何か			安楽死・尊厳死のはらむ問題を理解し、説明できるようになる。			
10. 尊厳死をめぐるいのちの対話 2：ALS 患者と尊厳死			ALS とともに生きる患者と家族の声を理解し、説明できるようになる。			
11. 尊厳死をめぐるいのちの対話 3：生きる意味への問い			「いのちの対話」を「生きる意味」の観点から解釈し、説明できるようになる。			
12. 脳死臓器移植 1：脳死と脳死臓器移植			脳死臓器移植を正当化する論理を理解し、説明できるようになる。			
13. 脳死臓器移植 2：脳死臓器移植の現状			脳死問題を「関係性」の問題としてとらえることの意義を理解し、説明できるようになる。			

14. 脳死臓器移植３：長期脳死という問題				子どもの脳死臓器移植のはらむ問題を理解し、説明できるようになる。			
定期試験（期末レポート）							
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 70%	■その他 30%
	基準等					定期試験を実施する。授業の内容を正確に理解した上で、自らの考察を的確に論述できるか否かを問う。授業の後半で定期試験の要領について説明する。	グループワークへの参加度を成績に反映させる。
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年
	なし。						
参考文献	適宜指示する。						
履修要件等							
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー		授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	BCS03-1E		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	医療哲学		担当教員	吉本 陵		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	人文科学系		選択必修	2 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	医療援助職に必要なコミュニケーション能力をケア論の観点から哲学的に考察する。					
学修目標 到達目標	1. ケアを仕事とすることに内在する困難を整理し、自分の言葉で説明できるようになる。 2. ケア能力の発展過程を事例を通して学ぶとともに、社会におけるケアの問題を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。 3. ケア論の観点から「臨床における哲学」について考察し、自分の言葉で説明できるようになる。					
授業形態 授業の進め方	講義形式の授業にグループワークを組み込む。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. ガイダンス・イントロダクション			「ケア」という言葉の意味を調べる。			
2. ケアを仕事とすることの困難 1：自責との闘い			前週の授業後に配布する資料を読み込み、知らない用語をあらかじめ調べる。			
3. ケアを仕事とすることの困難 2：なぜ話を聞くのがつらいか			前週の授業後に配布する資料を読み込み、知らない用語をあらかじめ調べる。			
4. ケアを仕事とすることの困難 3：ケアされながらケアする			前週の授業後に配布する資料を読み込み、知らない用語をあらかじめ調べる。			
5. ケアする者の発達過程 1：患者との関係性			前週の授業後に配布する資料を読み込み、知らない用語をあらかじめ調べる。			
6. ケアする者の発達過程 2：同情と共感			前週の授業後に配布する資料を読み込み、知らない用語をあらかじめ調べる。			
7. ケアする者の発達過程 3：ケア経験の蓄積			前週の授業後に配布する資料を読み込み、知らない用語をあらかじめ調べる。			
8. ケアする者の発達過程 4：ケアに対する見解の転換			前週の授業後に配布する資料を読み込み、知らない用語をあらかじめ調べる。			
9. ケアする者の発達過程 5：ケアの技法			前週の授業後に配布する資料を読み込み、知らない用語をあらかじめ調べる。			
10. 「世の中」の中のケア 1：障害者に対するケア			前週の授業後に配布する資料を読み込み、知らない用語をあらかじめ調べる。			
11. 「世の中」の中のケア 2：障害は個性か			前週の授業後に配布する資料を読み込み、知らない用語をあらかじめ調べる。			
12. 臨床における哲学 1：臨床の流動性			前週の授業後に配布する資料を読み込み、知らない用語をあらかじめ調べる。			

13. 臨床における哲学2：キュアとケア				前週の授業後に配布する資料を読み込み、知らない用語をあらかじめ調べる。					
14. 臨床における哲学3：○でもなく×でもなく				前週の授業後に配布する資料を読み込み、知らない用語をあらかじめ調べる。					
定期試験（期末レポート）									
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験	70%	■その他	30%
	基準等					定期試験を実施する。授業の内容を正確に理解した上で、自らの考察を的確に論述できるか否かを問う。授業の後半で定期試験の要領について説明する。		予習の実施状況、グループワーへの参加度を成績に反映させる。	
教科書		著者	タイトル			出版社		発行年	
		なし。							
参考文献		適宜指示する。							
履修要件等									
研究室		1号館1階 非常勤講師控室			オフィスアワー		授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	BSS01-1E		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	社会学		担当教員	野村 和樹		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	社会科学系		選択必修	2 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	「社会学とはどのような学問であるのか」という問いに答えを見つけられるように講義を進める。社会学の視点や方法論を理解するために古典的学説やいくつかの社会現象へのアプローチを紹介する。事例を用いて社会的アプローチを実際に試みる。					
学修目標 到達目標	1. 社会学の成り立ちから様々な学説が生まれた過程を理解することができる 2. 人間の行動と環境との関係を社会的な視点で見ることができる 3. 日常的な社会現象を社会的な問題として捉えることができる					
授業形態 授業の進め方	基本的には、講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4 版のファイルを用意すること。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. イントロダクションー社会学とは				学ぶ内容を整理すること		
2. 社会学の歴史と展開 I (社会学の命名から社会学への歩み)				社会学の命名に至る過程をまとめること		
3. 社会学の歴史と展開 II (実証科学としての社会学の確立)				社会学が実証科学であることをまとめること		
4. 実証科学としての「社会学」 黎明期における主要な人々とその思想 I (デュルケームの社会学)				デュルケームの学説をまとめること		
5. 実証科学としての「社会学」 黎明期における主要な人々とその思想 I (デュルケームの社会学Ⅱ)				『自殺論』の要点を整理すること		
6. 実証科学としての「社会学」 黎明期における主要な人々とその思想 II (ウェーバーの社会学Ⅰ)				ウェーバーの学説をまとめること		
7. 実証科学としての「社会学」 黎明期における主要な人々とその思想 II (ウェーバーの社会学Ⅱ)				『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の要点を整理すること		
8. 都市を知る I (シカゴにおける社会学の展開)				『ヨーロッパとアメリカにおけるポーランド		
9. 都市を知る II (シカゴ学派)				シカゴ学派の学説を整理すること		
10. 逸脱をうむ社会環境Ⅰ				『ジャック・ローラー』の要点を整理すること		
11. 逸脱をうむ社会環境Ⅱ				少年非行の要因をまとめること		
12. 今日の少年非行				事例を理解し、自説をまとめること		
13. 児童虐待Ⅰ 児童虐待とは				児童虐待の要点を整理すること		
14. 児童虐待Ⅱ 児童虐待の要因				統計資料を整理すること		
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 10%	
	基準等	単元終了時に講義内確認テストを実施		全般に渡る範囲から理解度をはかる	要点を整理したプリントを作成	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	各項目に応じてレジュメを配布する			
参考文献	適宜紹介する			
履修要件等				
研究室	1号館4階 第1研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12:00～13:00	

科目No.	BSS02-1E		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	社会福祉学		担当教員	野村 和樹		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	社会科学系		選択必修	2 単位	前期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	学生が自ら“他者を支援すること”を学びとれるよう、人間の尊厳や権利について、考え理解できるように児童福祉の領域を主として試みる。また、人間の尊厳が現代社会においていかに尊重されているのかを、福祉の制度施策に照らし合わせて考える。その上で、社会福祉における価値観や倫理、人権意識、思想、歴史などを体系的に学び理解する。					
学修目標 到達目標	1. 人間の尊厳と権利について理解できる 2. 社会福祉に関わる制度施策が理解できる 3. 各種の福祉サービスを理解し社会資源として活用できる					
授業形態 授業の進め方	講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4 版のファイルを用意すること。新しく学ぶ用語があるので、自ら用語集を作成できるようにノートを用意されることを勧める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 社会福祉とは			復習：自らの社会福祉観をまとめること			
2. 児童に見る権利の変遷と社会の歴史Ⅰ 社会の負担としての児童から労働力としての児童			復習：児童の地位の移り変わりをまとめること			
3. 児童に見る権利の変遷と社会の歴史Ⅱ 次代の国身としての児童から権利の主体としての児童			復習：「権利の主体」について考えをまとめること			
4. 社会的養護のおこりⅠ 明治時代にはじまる社会的養護			復習：明治時代にはじまる社会的養護のあり方を整理すること			
5. 社会的養護のおこりⅡ 感化事業の創設と展開			復習：明治期における先覚者の事業と意義をまとめること			
6. 児童領域における社会福祉とは			復習：児童福祉法を理解し整理すること			
7. 児童に関わる社会福祉の制度・施策			復習：児童福祉に関わる法律をまとめること			
8. 今日の児童に関わる問題 児童虐待、子どもの貧困問題			復習：児童虐待についてまとめること			
9. ライフサイクルと社会福祉			復習：ライフサイクルと福祉の関係をまとめること			
10. 障がい者の福祉とは			復習：日本における障がい者福祉の歴史をまとめること			
11. 障がい者福祉に関わる法制度 (身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法等)			復習：身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法についてまとめること			
12. 障がい者福祉における制度・施策 (障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法等)			復習：障害者総合支援法による支援についてまとめること			
13. 高齢期の社会福祉とは			復習：高齢者福祉の変遷についてまとめること			
14. 介護保険制度			復習：介護保険制度を理解し、整理すること			
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 10%
	基準等	講義内で確認テストを実施		全般に渡る範囲から理解度をはかる	要点を整理したプリントを作成
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	各項目に応じてレジュメを配布する				
参考文献	適宜紹介する				
履修要件等	社会保障制度、社会福祉援助論、障害者福祉論も受講されることが望ましい				
研究室	1号館4階 第1研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12:00～13:00	

科目No.	BSS03-1E		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	医療経営学		担当教員	村川 浩一、鎌田 香織		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	社会科学系		選択必修	2 単位	後期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	医療・福祉・教育など、対人サービス領域に共通する構造と課題を把握する。 少子高齢化・人口減少が進行する日本・地域社会において、医療・介護等のサービス特性を正しくふまえ、国民のニーズ・社会的要請に応えるべく、医療経営の本質と枠組みを習得する。					
学修・教育目標 及び到達目標	1. 医療経営の基本的事項から、医療経営をとりまく関連事項まで幅広く学習することができる 2. 基礎から応用分野までを包括的に探究し、医療機関だけでなく行政、福祉施設・地域福祉活動、医療関連ビジネスなどを理解し、この分野の経営管理に携わる資質を獲得することができる 3. 地域医療の動向に関連し、医療計画やマネジメントの視点を理解することができる					
授業の進め方 学修上の助言	1. 毎回数種類の資料を配布するので、保管用のファイルを用意すること。 2. 講義を中心に進行するが、論点を明らかにするため小グループ討論を行う（数回）。 3. 当日の授業等について、リアクションペーパーの記入を求める。					
授業計画					授業時間外に必要な学修	30 分以上
授業計画	1. 序：医療経営とは何か、講義のすすめ方、その他				復習を必ずしっかり行うこと。	
	2. 社会保障の歴史・制度 ― 日本の課題、海外の動向				同上	
	3. 医療経営と政策動向（その1）国民の保健医療行動とニーズ				同上	
	4. 医療経営と政策動向（その2）5 大国民病・地域医療の焦点				同上	
	5. 医療計画の展開（その1）大阪府保健医療計画、泉州医療圏ほか				同上	
	6. 医療計画の展開（その2）和歌山県保健医療計画、へき地医療ほか				同上	
	7. 医療計画の展開（その3）兵庫県保健医療計画、リハシステム				同上	
	8. 医療と介護の連携（その1）職業リハビリテーションの課題				同上	
	9. 医療と介護の連携（その2）高齢者のリハビリと介護支援				同上	
	10. 医療と介護の連携（その3）身体障害者のリハビリと生活支援等				同上	
	11. 医療と介護の連携（その4）精神障害者のリハビリと生活支援等				同上	
	12. 地域医療の諸問題（その1）医療構想・地域包括ケアシステム				同上	
	13. 地域医療諸問題（その2）医療サービス質向上・リスクマネジメント				同上	
	14. 地域医療の諸問題（その3）診療報酬リハビリテーション関係 （期末レ ポ ー ト）				同上	
	15. 結：医療経営をめぐる課題と方向 ― リハビリテーション中心に					
	成績評価方法	項目	☑課題・小テスト 10 %	☑レポート 70%	☐定期試験 %	☑その他 20%
基準等		※必要に応じて小テストを行う	与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する		リアクションペーパーの記入（コメント・感想など）	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	厚生労働統計協会	「国民衛生の動向 2019/2020」		厚生労働統計協会		2019
参考文献	上田敏	「リハビリテーションを考える」		青木書店		1980
	澤村誠志 ほか	「リハビリテーション白書3」		三輪書店		2013
	西村周三 ほか	「医療白書」		日本医療企画		2014
	厚生労働統計協会	「国民福祉の動向 2018/2019」		厚生労働統計協会		2018
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける		

科目No.	BNS03-1R		授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	情報処理学入門		担当教員	野村 和樹		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	自然科学系		必 修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	通常授業の課題作成のレベルから、実習のまとめ、卒業論文作成のレベルに至るまで、大学生活のあちらこちらで必要となってくる、メーラー、ブラウザ、ワープロ・ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーション・ソフトの基本的な仕組みと操作を身につけることを目的とする。					
学修目標 到達目標	1. 学内のネット環境を活用できる 2. 基本的なソフトを使うことができる 3. 学修・研究活動における基本的な関数を使うことができる					
授業形態 授業の進め方	実際にパソコン操作をしながら、授業を行う。雨宮と野村で分担する。教科書は特に指定せず、資料は授業内で配布する。第 1 回目、第 2 回目の授業には携帯電話を持って来ること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. CALL 教室の使用方法、学内メールの設定、タッチ・タイピング練習			タッチ・タイピングの課題を送付すること			
2. メール の 書き方①			メール作成し送信すること			
3. メール の 書き方②			メール作成し送信すること			
4. ワープロ・ソフトの使い方①			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
5. ワープロ・ソフトの使い方②			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
6. ワープロ・ソフトの使い方③			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
7. 文献検索			検索した文献を添付ファイルで送信すること			
8. 表計算ソフトの使い方①			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
9. 表計算ソフトの使い方②			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
10. 表計算ソフトの使い方③			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
11. ブラウザ + 表計算ソフトの使い方			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
12. プレゼンテーション・ソフトの基本①			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
13. プレゼンテーション・ソフトの基本②			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
14. プレゼンテーション・ソフトの基本③			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
成績評価方法	項目	■課題 70%	□レポート %	□定期試験 %	■その他 30%	
	基準等	毎回課せる課題を評価する				プレゼンテーション
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特になし					
参考文献	特になし					
履修要件等	特になし					
研究室	1 号館 4 階 第 1 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12:00～13:00		

科目No.	BNS04-1R		授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	情報処理学応用		担当教員	濱 裕光		
基本項目	専 攻	科 目 区 分 自然科学系		単 位 数		履修期間
	理学療法学			必 修	1 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	パーソナル・コンピュータ (PC) は、データの収集、蓄積、加工、分析に必要な不可欠なアイテムのひとつである。本講義では、代表的な表計算ソフトウェアである Excel の操作方法を学び、統計の基本的な処理ができるようになる。特に、統計は身近なもので、その使い方を覚えれば、便利な知的道具であることを理解できるようになる。					
学修目標 到達目標	1. 代表的な表計算ソフトウェアである Excel の操作方法を身につける 2. 基本的な統計処理ができる 3. 数値の羅列からは見えなかった本質の「見える化」のための道具の存在に気付く					
授業形態 授業の進め方	実技形式にて、表計算ソフト Excel を操作しながら、統計処理の基本の習得を目指す。毎回配布するプリントとエクセルファイルに沿って実際に入力することで理解を深める。エクセルの高機能、便利さに感動し、エクセルを使う楽しさ、便利さを体感して欲しい。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. エクセル基本操作、画面の各部の名称と役割 (教科書 pp1～20)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
2. エクセル入門①、装飾と表示形式 (教科書 pp21～33)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
3. エクセル入門②、「家計簿」で学ぶ 表計算の基礎 (教科書 pp34～41)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
4. エクセル入門③、データの活用、印刷テクニック (教科書 pp42～62)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
5. エクセル入門④、「請求書」で学ぶ関数 (教科書 pp63～73)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
6. エクセル入門⑤、テーブルとして書式設定 (教科書 pp46～57)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
7. エクセル入門⑥、日付・時間関数、論理関数 (教科書 pp74～76)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
8. エクセル入門⑦、基本的なグラフ・複合グラフ (教科書 pp86～91)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
9. エクセル入門⑧、視点を変えてデータを眺めよう (ピボットテーブル)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
10. 中 間 試 験				復習：模試問題を解いて、理解を深める		
11. 統計処理①、基礎統計量、時系列は滑らかに (参考書 ^(*) 第 5、6 章)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
12. 統計処理②、相関係数で 2 人の相性を (参考書 ^(*) 第 7 章)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
13. 統計処理③、消防署からの距離と火災時の損害額 (参考書 ^(*) 第 8 章)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
14. 統計処理④、ウェイトレスの平均時給の区間推定 (参考書 ^(*) 第 9 章)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
定 期 試 験				復習：模試問題を解いて、理解を深める		
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説、新薬の効果の検定)				復習：授業内容を復習し、理解を深める		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	□定期試験 80%		□その他 20%
	基準等			エクセルと統計処理に分けて、中間試験と後期試験を実施し、理解度の確認を行う。		出席および授業態度などの総合評価
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	金矢八十男 ほか	「500 円でわかるエクセル 2016 (コンピュータムック 500 円シリーズ)」		学研パブリッシング		2016
参考文献	室淳子、石村貞夫	「Excel でやさしく学ぶ統計解析」 ^(*)		東京出版		2004
	山田 覚	「医療・看護のためのやさしい統計学 基礎編」		東京図書		2005
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後		

科目No.	BNS01-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	生物学		担当教員	中村 美砂		
基本項目	専 攻	科 目 区 分 自然科学系		単 位 数		履修期間
	理学療法学			必 修	2 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	iPS 細胞で代表されるように生物学は現在、急速に進展しており、私たちの健康や病気の治療とも密接に関係している。授業では、「人」に焦点をあてた生命科学を内容とし、人の生命維持機構の持つ法則性・論理性について理解することを目標とする。					
学修目標 到達目標	1. 体の構成単位である細胞の構造と機能について説明できる 2. 体の中の物質代謝や情報伝達のしくみが説明できる 3. 遺伝子の構造と機能が説明できる					
授業形態 授業の進め方	教科書と配布プリントに沿った講義を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 体をつくる分子にはどのようなものがあるか (教科書 pp.29～37)				三大栄養素別に構成する分子をまとめること		
2. 生命とはなにか、生物とはどのようなものか (教科書 pp.10～18)				生物の基本的な性質についてまとめること		
3 細胞とはどのようなものか (教科書 pp.19～25)				細胞の内部構造と働きについてまとめること		
4. 細胞はどのように増えるか (教科書 pp.26～28)				2つの細胞分裂様式についてまとめること		
5. ヒトの体はどのようにできているか (教科書 pp.59～67)				各組織の構造と特徴についてまとめること		
6. [小テスト①] 体の中で物質はどのように変化するか I (教科書 pp.38～45)				酵素の働きについてまとめること		
7. 体の中で物質はどのように変化するか II (教科書 pp.38～45)				三大栄養素の代謝についてまとめること		
8. エネルギーはどのように獲得されるか (教科書 pp.68～76)				酸素と食物の利用方法についてまとめること		
9. 体の恒常性はどのように維持されるか (教科書 pp.87～97)				神経系についてまとめること		
10. ヒトは病原体とどのようにたたかうか (教科書 pp.98～106)				免疫についてまとめること		
11. [小テスト②] 遺伝子と遺伝はどのように関係しているか (教科書 pp.47～58)				メンデルの法則についてまとめること		
12. 遺伝子と体はどのように関係しているか (教科書 pp.47～58)				遺伝子からタンパク質が合成されるまでの過程をまとめること		
13. 遺伝子は医療にどのように関わっているか (教科書 pp.47～58)				講義で観賞したビデオ内容についてまとめること		
14. ヒトはどのように次の世代を残すか (教科書 pp.107～116)				生殖と初期発生についてまとめること		
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						

15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				試験で不正解だった領域をもう一度復習すること	
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 80%	□その他 %
	基準等	指定した講義の内容について小テスト（2回）を実施し、理解度を評価する。		全講義の内容についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	八杉貞雄	「ヒトを理解するための生物学」		裳華房	2013
参考文献	小林直人ほか	「まるわかり！基礎生物」		南山堂	2014
	巖佐庸 ほか	「生物学辞典 第5版」		岩波書店	2013
履修要件等					
研究室	1号館5階 第10研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 13:00～14:30	

科目No.	BNS02-1R, BNS02-1E		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	医療系の力学		担当教員	小奈 武陸		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	自然科学系		必修	2 単位	前期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学			選択必修		
授業内容の要約	リハビリテーション領域におけるチームアプローチを学ぶために最も基本的な知識と考え方を講義・実演形式で学ぶことができる。さらに今後の専門性を効率的に学習するために不可欠な前段階の領域を理解することができる。					
学修目標 到達目標	1. 身近な自然科学について体験学習を通じ、理解を深めることができる 2. 体験学習で興味のある内容をより深く学習することができる 3. 身体運動に関する基礎的な力学について説明ができる。					
授業形態 授業の進め方	・座席を指定し、出席管理を行う。 ・私語、居眠り、スマホの使用など授業にふさわしくない態度・行動には厳しく対応する。 ・「自己振り返り」を通じて学習目標への到達を目指す。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		60 分以上
1. 総論 自然科学に存在する単位について【武井】：国際単位系				左項目の期末レポート作成		
2. 伝導と伝達について（糸電話を体験しよう）【小奈】：伝える				左項目の期末レポート作成		
3. 音と聞こえの不思議Ⅰ【馬屋原】：周波数				左項目の期末レポート作成		
4. 音と聞こえの不思議Ⅱ【和田】：聞こえにくさ				左項目の期末レポート作成		
5. 地球と月の違い【岡】：物の大きさ				左項目の期末レポート作成		
6. 性質の違いによる重さ感覚の違い【小奈】：物の密度				左項目の期末レポート作成		
7. 体性感覚と視覚の役割【南】：生活に必要				左項目の期末レポート作成		
8. 重力と身体について【小奈】：寝たきりとは				左項目の期末レポート作成		
9. 抗重力活動とは【武井】：筋活動				左項目の期末レポート作成		
10. やじろべえはなぜ倒れない【南】：中心の意味				左項目の期末レポート作成		
11. テコの働きを利用した生活用品【武井】：支点とは				左項目の期末レポート作成		
12. 運動を伝える【小奈】：ジェスチャー				左項目の期末レポート作成		
13. ジェットコースターとフリーホールの違いとは【岡】：重力の方向				左項目の期末レポート作成		
14. 身近なエネルギーの変換【南】：生活活動				左項目の期末レポート作成		
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	■レポート 20%	■定期試験 60%	□その他 %	
	基準等	各授業内課題レポート	1～14回までの総まとめレポート	理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特になし					
参考文献	特になし					
履修要件等						
研究室	1 号館 4 階 第 3 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12：10～12：50		

科目No.	BFL01-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	英文法		担当教員	パトリック・ポーレン		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	外国語系		必 修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	This course will clearly present the important aspects of English grammar, especially that of the “subject + verb,” which is the basis for English composition. This will help students in their future study of medical dissertations.					
学修目標 到達目標	1. The study of basic English grammar—“Subject + Verb” 2. Confirming the exchange of information in English 3. Reading and understanding of elementary texts, especially concerning the medical field					
授業形態 授業の進め方	講義, 演習					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1 ”Be” Verb, (教科書 pp 8-11)				準備として、宿題を完成させ、来週のクイズに向けて勉強します。		
2. Simple Present Tense (教科書 pp 12-15)				〃		
3. Simple Past Tense (教科書 pp 16-19)				〃		
4. Pronouns (教科書 pp 20-23)				〃		
5. Prepositions (教科書 pp 24-27)				〃		
6. Progressive Tenses (教科書 pp 28-31)				〃		
7. Nouns and Articles (教科書 pp 32-35)				〃		
8. Modals (教科書 pp 36-39)				〃		
9. Suggestions and Commands (教科書 pp 40-43)				〃		
10. Simple Future Tense (教科書 pp 44-47)				〃		
11. Questions Words and Tag Questions (教科書 pp 48-51)				〃		
12. Adjectives (教科書 pp 52-55)				〃		
13. Comparatives (教科書 pp 56-59)				〃		
14. Adverbs (教科書 pp 60-63)				〃		
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題 50%	□レポート %	□定期試験 %	■小テスト 50%	
	基準等	Homework will be assigned and checked weekly.			授業内の小テスト (14 回)を実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	Bennett; Komiya	“Grammar Plus”		Nan’un-do		2013
参考文献	None.					
履修要件等	Please come fully prepared to each class meeting.					
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	BFL02-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	英文講読 (PT)		担当教員	藪内 昭男		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	外国語系		必 修	1 単位	後 期 (30h)
授業内容の要約	教科書本文の英文和訳練習と、それに続く理解度チェック問題や英作文問題を解く。					
学修目標 到達目標	1. 医学・医療関係の英文を読解することができる。 2. 医学・医療関係の英単語 (句) の日本語の意味を言うことができる。 3. 医学・医療関係の英文を聴いて理解することができる。					
授業形態 授業の進め方	本文を CD で聴く、本文の音読練習 (全員)、1 文ずつ一人ひとり日本語訳を言う、教師が英文の構造等を説明しながら日本語訳を板書する、理度チェック問題等を各学生に答えさせる。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. Unit 1 The Human Body pp.6-7			予習をしてくること、辞書を持ってくること			
2. Unit 1 The Human Body pp.7-8			ditto (同上)			
3. Unit 1 The Human Body pp.8-9			ditto (同上)			
4. Unit 3 Communicable Diseases pp.14-15			ditto (同上)			
5. Unit 3 Communicable Diseases pp.15-16			ditto (同上)			
6. Unit 3 Communicable Diseases pp.16-17			ditto (同上)			
7. Unit 5 Reforming Japanese Healthcare pp. 22-23			ditto (同上)			
8. Unit 5 Reforming Japanese Healthcare pp. 23-24			ditto (同上)			
9. Unit 5 Reforming Japanese Healthcare pp. 24-25			ditto (同上)			
10. Unit 7 Dr. Kitasato and the Development of ~ pp. 30-31			ditto (同上)			
11. Unit 7 Dr. Kitasato and the Development of ~ pp. 31-32			ditto (同上)			
12. Unit 7 Dr. Kitasato and the Development of ~ pp. 32-33			ditto (同上)			
13. Unit 9 Clinical Engineering pp. 38-39			ditto (同上)			
14. Unit 9 Clinical Engineering pp. 39-40			ditto (同上)			
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 60%	■その他 10%	
	基準等	各Unit が終わる度に単語テストを行う (30点満点)		本文の英文和訳テスト (60点満点)	平常点 (出席、予習、教科書忘れ、受講態度、等) (10 点満点)	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	高津昌宏, 他	The Hospital Team		南雲堂		2010
参考文献	適宜言及する					
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	BFL02-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	英文講読 (OT/ST)		担当教員	藪内 昭男		
基本項目	専 攻	科 目 区 分 外国語系		単 位 数		履修期間
				必 修	1 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	教科書本文の英文和訳練習と、それに続く理解度チェック問題や英作文問題を解く。					
学修目標 到達目標	1. 医学・医療関係の英文を読解することができる。 2. 医学・医療関係の英単語（句）の日本語の意味を言うことができる。 3. 医学・医療関係の英文を聴いて理解することができる。					
授業形態 授業の進め方	本文を CD で聴く、本文の音読練習（全員）、1 文ずつ一人ひとり日本語訳を言う、教師が英文の構造等を説明しながら日本語訳を板書する、理度チェック問題等を各学生に答えさせる。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. Unit 2 Nutrition and Fitness pp. 10-11			予習をしてくること。辞書を持ってくること。			
2. Unit 2 Nutrition and Fitness pp. 11-12			ditto (同上)			
3. Unit 2 Nutrition and Fitness pp. 12-13			ditto (同上)			
4. Unit 4 Hygiene and Public Health pp. 18-19			ditto (同上)			
5. Unit 4 Hygiene and Public Health pp. 19-20			ditto (同上)			
6. Unit 4 Hygiene and Public Health pp. 20-21			ditto (同上)			
7. Unit 6 Needlestick Injuries in Medicine pp. 26-27			ditto (同上)			
8. Unit 6 Needlestick Injuries in Medicine pp. 27-28			ditto (同上)			
9. Unit 6 Needlestick Injuries in Medicine pp. 28-29			ditto (同上)			
10. Unit 8 The Medical Laboratory Technologist pp. 34-35			ditto (同上)			
11. Unit 8 The Medical Laboratory Technologist pp. 35-36			ditto (同上)			
12. Unit 8 The Medical Laboratory Technologist pp. 36-37			ditto (同上)			
13. Unit 10 Radiological Technology pp. 42-43			ditto (同上)			
14. Unit 10 Radiological Technology pp. 43-44			ditto (同上)			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート	%	■定期試験 60%	■その他 10%
	基準等	各Unit が終わる度に単語テストを行う（30点満点）			本文の英文和訳テスト（60点満点）	平常点（出席、予習、教科書忘れ、受講態度、等）（10 点満点）
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	高津昌宏、他	The Hospital Team			南雲堂	2010
参考文献	適宜言及する					
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	BFL03-1E		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	英会話		担当教員	パトリック・ポーレン		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	外国語系		選択必修	2 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	This English conversation course will build student confidence and improve overall English speaking and listening proficiency through enjoyable in-class oral activities. Moreover, this course will provide the proper foundation for future English study.					
学修目標 到達目標	講義, 演習					
授業形態 授業の進め方	Students should come to every class and practice enthusiastically. They should also do each homework assignment neatly and completely.					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60 分以上	
1 Introductions, course explanation			準備として、宿題を完成させ、来週のクイズに向けて勉強します。			
2. Getting to know each other (教科書 pp 2-4)			〃			
3. Greetings, questions about abilities (教科書 pp 5-10)			〃			
4. Questions about personal information (教科書 pp 11-15)			〃			
5. Questions about times and dates (教科書 pp 16-21)			〃			
6. Understanding personal schedules (教科書 pp 22-26)			〃			
7. Understanding map directions (教科書 pp 38-42)			〃			
8. Review of Weeks 1-7			〃			
9. Describing people (教科書 pp 43-47)			〃			
10. Discussing one's preferences (教科書 pp 61-65)			〃			
11. Giving information about one's future plans (教科書 pp 66-70)			〃			
12. Discussing past activities (教科書 pp 71-75)			〃			
13. Ordering a meal at a restaurant (教科書 pp 76-80)			〃			
14. Talking about culture and places in Japan			〃			
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)			:			
成績評価方法	項目	■課題 50%	□レポート %	□定期試験 %	■小テスト 50%	
	基準等	Homework will be assigned and checked weekly.			授業内の小テスト (14回)を実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	
教科書	著者		タイトル		出版社	
	Wilson and Barnard		“Fifty-fifty: A speaking and listening course, Book 1, Third Edition”		Pearson ELT	
参考文献	None					

履修要件等	Please come fully prepared to each class meeting.		
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	BHS02-1E		授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	スポーツ実技A		担当教員	中 裕 俊 介		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	健康体育系		選択必修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	ニュースポーツなどの実践を通じ、心身の変化や技能の向上を体験し、自分に適した活動を見つけ、生涯スポーツに向けて主体的に健康と体力を維持増進する能力を養う。					
学修目標 到達目標	1. 身体運動やスポーツの実践を通して、心身の変化や技能の向上の方法を理解する 2. 道具やルールの変更で、スポーツの喜びや面白さが変化することを理解する 3. 集団行動における自らの特性を知る					
授業形態 授業の進め方	実技形式にて実施する。運動の出来る服装、運動靴で参加する。 履修学生が極端に少ない・多い場合は、実施種目を若干変更する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. オリエンテーション 受講方法、記念講堂の使用について等						
2. ニュースポーツ① インディアカ：パス回しが出来るようになる			予習：インディアカの競技ルールを調べる			
3. ニュースポーツ② インディアカ：アタックが出来るようになる			予習：インディアカの練習方法を調べる			
4. ニュースポーツ③ インディアカ：試合での動き方を習得する			予習：インディアカの練習方法を考える			
5. ニュースポーツ④ インディアカ：得点方法を変える			予習：インディアカの練習方法を考える			
6. 体力測定① (形態測定)			予習：新体力テスト実施要項を調べる			
7. 体力測定② (体力測定)			予習：体力・運動能力調査結果を調べる			
8. ニュースポーツ⑤ ペタンク：正規ルール・アジャタ：ジュニアA			予習：ペタンク・アジャタの競技ルールを調べる			
9. ニュースポーツ⑥ ペタンク：コート制限・アジャタ：ジュニアB			予習：ペタンク・アジャタの練習方法を調べる			
10. ニュースポーツ⑦ ペタンク：人数制限・アジャタ：一般			予習：ペタンク・アジャタの練習方法を考える			
11. ニュースポーツ⑧ 創作						
12. ニュースポーツ⑨ 創作実技指導：Aグループ、Bグループ			予習：実技指導の準備を行う			
13. ニュースポーツ⑩ 創作実技指導：Cグループ、Dグループ			予習：実技指導の準備を行う			
14. ニュースポーツ⑪ 創作実技指導：Eグループ、Fグループ			予習：実技指導の準備を行う			
創作実技指導を実技試験とする						
15. 総括及びフィードバック (全講義の振り返り)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 30%	
	基準等	なし	なし	・第11～14回目の講義にて、ニュースポーツを創作し、指導する。ルール設定や指導状況の完成度を評価する。	・準備体操・主運動、備品準備・後片付け等の参加状況を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	なし	なし		なし		なし
参考文献	なし	なし		なし		なし
履修要件等	運動制限、運動を禁止されている学生は、事前に学務係に連絡しておくこと。					
研究室	3 号館 2 階 第 26 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：30		

科目No.	BHS03-1E		授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	スポーツ実技B		担当教員	中 裕 俊 介		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	健康体育系		選択必修	1 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	ニュースポーツなどの実践を通じ、心身の変化や技能の向上を体験し、自分に適した活動を見つけ、生涯スポーツに向けて主体的に健康と体力を維持増進する能力を養う。					
学修目標 到達目標	1. 身体運動やスポーツの実践を通して、心身の変化や技能の向上の方法を理解する 2. 道具やルールの変更で、スポーツの喜びや面白さが変化することを理解する 3. 集団行動における自らの特性を知る					
授業形態 授業の進め方	実技形式にて実施する。運動の出来る服装、運動靴で参加する。 履修学生が極端に少ない・多い場合は、実施種目を若干変更する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. ニュースポーツ① アルティメット：様々な投げ方を習得する			予習：競技ルールを調べる			
2. ニュースポーツ② アルティメット：正確に投げられるようになる			予習：練習方法を調べる			
3. ニュースポーツ③ アルティメット：試合での動き方を習得する			予習：練習方法を考える			
4. ニュースポーツ④ アルティメット：得点方法を変える			予習：練習方法を考える			
5. 実技試験 アルティメットの正確なスロー						
6. ニュースポーツ⑤ ドンドンパ、シャッフルボード：正規ルール			予習：競技ルールを調べる			
7. ニュースポーツ⑥ ドンドンパ、シャッフルボード：得点方法の変更			予習：練習方法を考える			
8. ニュースポーツ⑦ ドンドンパ、シャッフルボード：得点方法の変更			予習：練習方法を考え			
9. 実技試験 ドンドンパの回数、シャッフルボードの正確なスロー						
10. ニュースポーツ⑧ ユニホック：ボール回しが出来るようになる			予習：競技ルールを調べる			
11. ニュースポーツ⑨ ユニホック：シュートが出来るようになる			予習：練習方法を調べる			
12. ニュースポーツ⑩ ユニホック：試合での動き方を習得する			予習：練習方法を考える			
13. ニュースポーツ⑪ ユニホック：得点方法を変える			予習：練習方法を考える			
14. 実技試験 ユニホックのドリブルとシュートのタイムトライアル						
授業内にて実技試験を行う						
15. 総括及びフィードバック（全講義の振り返り）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 60%	■その他 40%	
	基準等	なし	なし	・第5、9、14回目の講義にて、各種目における技能の到達度の評価を行う。	・準備体操・主運動、備品準備・後片付け等の参加状況を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	なし	なし		なし		なし
参考文献	なし	なし		なし		なし
履修要件等	運動制限、運動を禁止されている学生は、事前に学務係に連絡しておくこと。					
研究室	3 号館 2 階 第 26 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：30		

科目No.	BHS01-1E		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	レクリエーション		担当教員	中村 俊介		
基本項目	専 攻	科 目 区 分 健康体育系		単 位 数		履修期間
	理学療法学			選択必修	2 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	レクリエーションの企画立案・指導を通して、対象者の理解、アクティビティの選択、プログラムの進め方、効果判定、安全への配慮などについて学習する。また、他者の運営するプログラムを客観的に評価する経験を通して、プログラム運営において留意しなければならない視点を理解する。					
学修目標 到達目標	1. レクリエーションの企画立案、プログラム運営ができるようになる 2. 目的に対する方法の在り方を理解する 3. 他者にとって分かりやすい説明ができるようになる					
授業形態 授業の進め方	実技形式にて実施する。授業の中で参加者、指導者、評価者としての役割りを担う。毎回、その日に実施した授業内容をレポートにまとめて提出する。 筆記用具・バインダーを持参、運動の出来る服装、運動靴で参加すること。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. オリエンテーション、出会い系レクリエーション①				予習： p 2-13 を 読んでくる		
2. 出会い系レクリエーション②				予習： p 212-244 を 読んでくる		
3. 遊戯系レクリエーション				予習： p 244-277 を 読んでくる		
4. 企画案作成				予習： p 22-34 を 読んでくる		
5. 企画準備				予習： p 140-209 を 読んでくる		
6. レクリエーション指導①（指導：Aグループ、評価：Bグループ）				復習：実施した種目と具体的ルールの確認		
7. レクリエーション指導②（指導：Bグループ、評価：Cグループ）				復習：実施した種目と具体的ルールの確認		
8. レクリエーション指導③（指導：Cグループ、評価：Dグループ）				復習：実施した種目と具体的ルールの確認		
9. レクリエーション指導④（指導：Dグループ、評価：Eグループ）				復習：実施した種目と具体的ルールの確認		
10. レクリエーション指導⑤（指導：Eグループ、評価：Fグループ）				復習：実施した種目と具体的ルールの確認		
11. レクリエーション指導⑥（指導：Fグループ、評価：Gグループ）				復習：実施した種目と具体的ルールの確認		
12. レクリエーション指導⑦（指導：Gグループ、評価：Hグループ）				復習：実施した種目と具体的ルールの確認		
13. レクリエーション指導⑧（指導：Hグループ、評価：Aグループ）				復習：実施した種目と具体的ルールの確認		
14. 知的レクリエーション						
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	■レポート 40%	■定期試験 30%	□その他 %	
	基準等	・第4～13回目の各自の企画案、指導における出来栄、具体的な配慮等を評価する。	・毎回、授業内容をまとめて提出する。 ・第6～13回目の他グループの指導を評価する。	・授業の中で行ったレクリエーション指導、評価における必要事項等の理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	中村春基	「レクリエーション 改定第2版」 社会参加を促す治療的レクリエーション			三輪書店	2004
参考文献	特になし	特になし			特になし	特になし
履修要件等	・運動制限、運動を禁止されている学生は、事前に学務係に連絡しておくこと。					
研究室	3 号館 2 階 第 26 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：30		

科目No.	BLA01-1R		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	基礎ゼミ		担当教員	各担当教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	教養ゼミ		必修	2 単位	前期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	4 年間の学修に必要な「分類し、系統立てる力」の基礎を身につけるため、施設見学、レポート作成を行う。					
学修目標 到達目標	1. 自分で取ったメモをもとにレポート作成ができる 2. 「事実の記述」と「考察」と「感想」の書き分けができる 3. 対話をとおして、学びを深めることができる 4. 情報利活用能力（情報モラル、情報探索、情報整理等）を身につけることができる					
授業形態 授業の進め方	少人数形式で、担当教員の指導のもと、アクティブ・ラーニング（施設見学、グループワーク、ディスカッションなど）を中心とした授業を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. ダンドリ手帳、関連施設見学の概略説明、顔合わせ（全体）				ダンドリ手帳を実践すること		
2. レポート課題の説明、メモの取り方、見学の身だしなみについて(全体)				メモの取り方を各授業で練習すること		
3. 見学の目的（全体）→関連施設の事前情報収集（個別）				関連施設の情報収集をすること		
4. 関連施設見学(1)				関連施設の事前情報収集		
5. 関連施設見学(1)のまとめ				関連施設見学レポート提出		
6. 関連施設見学(2)				関連施設の事前情報収集		
7. 関連施設見学(2)のまとめ				関連施設見学レポート提出		
8. 関連施設見学(3)				関連施設の事前情報収集		
9. 関連施設見学(3)のまとめ				関連施設見学レポート提出		
10. 各ゼミ担当教員によるプログラム①				各ゼミ担当教員によるプログラム（グループワーク、ディスカッションなど）を振り返り、知識を深める。		
11. 各ゼミ担当教員によるプログラム②						
12. 各ゼミ担当教員によるプログラム③						
13. 各ゼミ担当教員によるプログラム④						
14. 各ゼミ担当教員によるプログラム⑤						
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 60%	□定期試験 %	■その他 40%	
	基準等	関連施設見学のレポートにおける「事実の記述」「考察」「感想」の書き分けの達成度で評価する。			各演習の達成度を評価する。 尚、最終成績は、各評価と成長度合をもとに決定する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考文献		関連施設見学の手引き		大阪河崎リハビリテーション大学		2019
履修要件等						
研究室	各担当教員研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No.	FBM01-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	形態・機能学解剖領域 I		担当教員	小西 正良 ・ 伊藤 隆雄		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達		必 修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	基礎医学				
授業内容の要約	ヒトのからだを植物性機能と動物性機能に分けて、前期の本科目では、植物性機能を有する各器官が身体のどこに配置され、どのような形態・構造・仕組みであるかを正常系統的に学ぶ。組織・細胞学、発生学、人類学的な多様な知見に立って学ぶ。また、機能学的な関連の側面からも考察を進め「人体」を総合的に理解してゆく。					
学修目標 到達目標	1. 体腔という概念を理解し、そこに収まる器官の配置と関連性を理解することができる 2. 消化・吸収機能を持つ器官の形態と構造について、正確に理解することができる 3. 呼吸と発声メカニズムについての器官の形態と構造について、正確に理解することができる 4. 心臓を中心とした血液循環器系およびリンパ系について、正確に理解することができる 5. 泌尿器系での尿生成器官、生殖器系での生殖発生について、正確に理解することができる					
授業形態 授業の進め方	講義。教育機器を適切に利用するが、最終的な理解、記憶はノートにまとめることに勝るものはない。このため、多色の図版を黒板に板書するので色鉛筆（マーカーや色ボールペンでなく）を用意すること。また、アクティブラーニング手法を取り入れ、より主体的に学ぶ。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 解剖学総論－解剖学とは（形態と機能）－解剖学の考え方、生物学における解剖学の位置、解剖学の種類、解剖学的正位、解剖学用語と方向用語、ラテン語の導入 pp.5－7				高校での生物学の基礎知識および国語の漢字能力		
2. 細胞、器官、系統、細胞内小器官とその機能、遺伝子と DNA、遺伝情報の仕組み pp.8－18				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
3. 消化器系Ⅰ－口腔、歯、舌、唾液腺とその分泌 pp.369－374				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
4. 消化器系Ⅱ－咽頭、食道・胃・十二指腸の構造、消化管と腹膜 pp.374				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
5. 消化器系Ⅲ－実質器官である肝臓、脾臓、胆嚢と胆汁分泌、血糖値の調節 pp.379－383				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
6. 呼吸器系Ⅰ－鼻腔、咽頭・喉頭、気管・気管支、呼吸の仕組み p.384－388				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
7. 呼吸器系Ⅱ－肺区域、縦隔、副鼻腔、発声のメカニズム pp.389－				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
8. 循環器系Ⅰ－体循環と肺循環、心臓の構造と特殊伝導系 pp.339－				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
9. 循環器系Ⅱ－主な動脈とリンパ管、胎児循環 pp.346－359				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
10. 循環器系Ⅲ－門脈と側副循環路、硬膜静脈洞、奇静脈 pp.359－368				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
11. 泌尿器系－腎臓の構造、尿の生成と血圧調整、膀胱、尿路 pp.392				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
12. 内分泌系－内分泌線と外分泌線、膜タンパクと液性調節 pp.406－				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
13. 自律神経系－交感神経と副交感神経 pp.317－322				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
14. 生殖器系Ⅰ－男性生殖器 pp.399－401、生殖器系Ⅱ－女性生殖器、発生学 pp.401－402				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 0%	
	基準等	毎回の授業中に実施する小テスト（記述式）を 10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋め、論述などで出題し、その成績を 90%換算する。		

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第4版」	医学書院	2015
参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第8版」	医学書院	2016
	相磯貞和訳	「ネッター解剖学 カラーリングテキスト」 原書第5版	南江堂	2011
履修要件等	特段なし			
研究室	1号館5階 第12研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:00～13:00	

科目No.	FBM03-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	形態・機能学解剖領域Ⅱ（PT・OT）		担当教員	小西 正良		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達		必 修	1 単位	後 期（30h）
	作業療法学					
授業内容の要約	前期の同科目の内容を基礎として、後期の本科目では、動物性機能を有する各器官がどのような形態・構造であり、身体どこに配置されているのかを系統的に学ぶ。組織・細胞学、発生学、人類学的な多様な知見に立って学ぶ。また、機能学的な関連の側面からも考察を進め「人体」を総合的に理解してゆく。					
学修目標 到達目標	1. 骨、筋、関節など運動器系の形態と構造について、正確に理解することができる 2. 神経系の構造を中枢神経と末梢神経に分けて、正確に理解することができる 3. 上・下行性伝導路について、その経路と機能を正確に理解することができる 4. 特殊感覚器の構造とその情報伝導路について正確に理解することができる 5. 一般感覚および深部知覚器の構造とその伝導路について正確に理解することができる					
授業形態 授業の進め方	講義。教育機器を適切に利用するが、最終的な理解、記憶はノートにまとめることに勝るものはない。このため、多色の図版を黒板に板書するので色鉛筆（マーカーや色ボールペンでなく）を用意すること。また、アクティブラーニング手法を取り入れ、より主体的に学ぶ。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 骨学総論－椎骨の形態を中心とした骨の構造、骨の代謝と微細構造、成長と老化、破骨細胞、骨芽細胞 pp.27－36			前期講義内容の復習			
2. 関節・靱帯学－滑膜性連結を中心とした関節の種類と構造、運動の種類 pp.87－103			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
3. 筋学総論－筋の種類と収縮メカニズム、ミクロ構造 pp.163－177			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
4. 神経総論－神経の区分、ニューロンの種類と刺激伝導のメカニズム pp.239－250			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
5. 脳神経Ⅰ－第1～第6脳神経の線維構成 pp.305－310			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
6. 脳神経Ⅱ－第7～第12脳神経の線維構成 pp.311－320			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
7. 中枢神経Ⅰ－脳の構造、髄膜、脳室と脳脊髄液、大脳の機能局在と脳地図、優位性 pp.251－260			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
8. 中枢神経Ⅱ－脳幹の断面と小脳、脊髄の構造 pp.255－260			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
9. 自律神経系 pp.316－319			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
10. 視覚器とその付属器－眼球の構造、外眼筋とその運動 pp.330－335			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
11. 聴・平衡感覚器－耳、膜迷路と骨迷路、聴覚伝導路、平衡感覚路 pp.335－338			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
12. 伝導路総論－神経の伝達経路と神経伝達物質、上行性・下行性伝導路の特徴 pp.345－351			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
13. 伝導路Ⅰ－錐体路 p.281－283、伝導路Ⅱ－錐体外路 pp.275－280			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
14. 伝導路Ⅲ－上行性伝導路、小脳と固有感覚路 pp.283－284			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 0%	
	基準等	毎回の授業中に実施する小テスト（記述式）を10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋め、論述などで出題し、その成績を90%換算する。		

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第4版」	医学書院	2015
参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第8版」	医学書院	2016
	相磯貞和訳	「ネッター解剖学 カラーリングテキスト」 原書第5版	南江堂	2011
履修要件等	特段なし			
研究室	1号館5階 第12研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:00～13:00	

科目No.	FBM02-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	形態・機能学解剖領域Ⅱ（S T）		担当教員	伊藤 隆雄		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	基礎医学		必 修	1 単位	後 期（30h）
授業内容の要約	前期における本科目の内容を基礎として、後期では言語聴覚学で必要となる発生学および神経系を中心としての形態と構造を理解する。また、機能学的な側面からも考察して「人体」を総合的に理解してゆく。					
学修目標 到達目標	1. 受精から出生までの器官形成について正確に理解することができる 2. 神経系の構造を中枢神経と末梢神経に分けて正確に理解することができる 3. 上・下行性伝導路、特殊感覚路についてその経路と機能が正確に理解することができる					
授業形態 授業の進め方	講義。本科目では、講義開始時 10 分間での小テスト実施、70 分間の本講義、5 分間のアセスメントの記述にあてる。10 分間の小テストでは、前回の講義内容の理解度を確認し、70 分間の本講義ではスライド提示を主体に講義を進める。配布資料への主体的な書き込みを求める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 筋学 1 -総論、発声に関わる筋、咽頭と喉頭の構造 p163-177, 385-388			講義配布資料最終 P の問題を解答すること			
2. 筋学 2 -咀嚼運動、嚥下反射とそれに関わる筋および神経 p208-213			同上、咀嚼・嚥下について復習すること			
3. 発生学 1 -配偶子形成、受精、着床、卵割、胚胞の形成 p399-404, 19			同上、配偶子形成から着床までを復習すること			
4. 発生学 2 -三層性胚盤、神経管、体節、消化管発生 p19-21			同上、胚胞～3 層性胚盤について復習			
5. 器官発生 1 -咽頭器官、舌、顔面 p21-26			同上、鰓弓について復習すること			
6. 器官発生 2 -呼吸器、耳の発生 p21-26			同上、器官形成について復習すること			
7. 特殊循環 -胎児循環、脳底動脈系、硬膜静脈洞 p346-349, 355-359			同上、特殊循環、肺循環、体循環について			
8. 脳神経 1 第 1～6 脳神経と視覚器 p305-310, 330-334			同上、脳神経を構成する神経線維の種類について			
9. 脳神経 2 第 7～12 脳神経と味覚、聴覚・平衡覚 p311-316,334-337			同上、遠心性・求心性神経線維について			
10. 中枢神経 1 神経系の発生、中枢神経の区分とその機能、脳幹			同上、神経系総論について復習すること			
11. 中枢神経 2 大脳の区分と脳地図、機能局在、優位脳 p264-272			同上、脳地図、機能局在について			
12. 中枢神経 3 下行性伝導路 p281-283			同上、下行性伝導路について			
13. 中枢神経 4 上行性伝導路、特殊感覚路 p275-281			同上、上行性伝導路について			
14. 中枢神経 5 大脳辺縁系、papez 回路 p269			同上、海馬、記憶に関わる回路について			
定 期 試 験（定期試験期間における筆記試験で、資料は持ち込み不可）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 80%	□その他 10%	
	基準等	毎回、講義中に小テスト（穴埋め式）を実施し、講義の理解度を評価し、その成績を10%換算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択式や穴埋め式、論述などで出題し、その成績を80%換算する。	講義中における発言・質疑応答への参加度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	野村 巖	「標準理学療法学・作業療法学解剖学第4版」		医学書院		2015
参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第6版」		医学書院		2002
	相磯貞和訳	「ネッター解剖学 カラーリングテキスト」		南江堂		2011
履修要件等	特段なし					
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目№	FBM04-1R, FBM06-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	形態・機能学生理領域I		担当教員	坪田 裕司		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び 身体の発達		必 修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	基礎医学				
授業内容の要約	身体の異常を把握・理解する為には、正常な姿を理解しておく必要があることはいうまでもない。生理学では、人体の細かな機能と、それらを統合する生体機能の自己調節、恒常性の維持機構、適応について学習し、生きている仕組みを総合的に理解できるように学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 人体の基本的生理機能を理解できる。 2. 細胞から臓器、個体レベルまで機能している生理的システムをイメージできる。 3. 生命現象における基本的な知識を学習して、今生きている、命を支えている体の仕組みを説明出来る。					
授業形態 授業の進め方	講義ポイントのまとめ資料をあらかじめ配布する。まとめ資料を読んでおよその講義内容を把握しておくこと。国試はもちろん専門科目の基礎として重要な内容ばかりであるから、授業で触れられなかった部分も含め充分な予習復習が重要である。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 細胞生物学、生命の単位、(細胞の構造、細胞膜、遺伝と進化、ATP)			はじめにまとめ資料小冊子を配布するので、該当する章の復習			
2. 消化と吸収（三大栄養素、消化管、消化酵素、蛋白質、糖質、脂質）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
3. 代謝と栄養（蛋白質代謝、糖質代謝、脂質代謝、エネルギー代謝）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
4. 血液（赤血球、白血球、血小板、血色素とその代謝、酸素と二酸化炭素）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
5. 呼吸（呼吸器、呼吸運動、ガス交換）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
6. 循環：心臓と心電図（心臓の構造と機能、血管系、刺激伝導系、心電図の基礎）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
7. 微小循環、脳循環とリンパ循環（間質液、脳脊髄液、脳血液関門、リンパ管）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
8. 尿生成と排泄（腎臓の構造と機能、利尿）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
9. 細胞膜と物質の出入り（受容体、興奮性細胞、神経細胞、静止膜電位）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
10. 神経線維、興奮の伝導（インパルス、シナプス伝達、跳躍伝導、神経伝達物質）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			

11．神経の情報伝達（興奮性と抑制性接続、神経系、中枢神経、末梢神経）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
12．感覚（感覚と知覚、体性感覚、内臓感覚）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
13．感覚（深部感覚、視覚）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
14．感覚（視覚続き、聴覚、味覚、嗅覚、平衡感覚）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
定期試験（期末レポート）						
15．総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 55%	■レポート 3 %	■定期試験 40 %	■その他 2 %	
	基準等	全体 1/3、2/3 ほどで 中間テストを 2 回行 なう	提出物で評価する	中間テストと合わせ て評価する	講義への参加度合 いで評価する	
教科書		著者	タイトル		出版社	発行年
		KimE. Barerett, 他著 岡田泰伸 他訳	「ギャノン生理学 原書 25 版」		丸善	2017
参考文献		桑名俊一他編著	生理学		理工図書	2016
履修要件等		高校生物学履習済みもしくは生物学履習中であること。				
研究室		1 号館 5 階 第 11 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16:20～17:50	

科目№	FBM07-1R, FBM05-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	形態・機能学生理領域Ⅱ		担当教員	坪田 裕司		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び 身体の発達		必 修	1 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	基礎医学				
授業内容の要約	身体の異常を把握・理解する為には、正常な姿を理解しておく必要があることはいうまでもない。生理学では、人体の細かな機能と、それらを統合する生体機能の自己調節、恒常性の維持機構、適応について学習し、生きている仕組みを総合的に理解できるように学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 人体の基本的生理機能を理解できる。 2. 細胞から臓器、個体レベルまで機能している生理的システムをイメージできる。 3. 生命現象における基本的な知識を学習して、今生きている、命を支えている体の仕組みを説明出来る。					
授業形態 授業の進め方	講義ポイントのまとめ資料をあらかじめ配布する。まとめ資料を読んでおよその講義内容を把握しておくこと。国試はもちろん専門科目の基礎として重要な内容ばかりであるから、授業で触れられなかった部分も含め充分な予習復習が重要である。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 筋（筋細胞、筋収縮、筋繊維の構造、興奮収縮連関）			はじめにまとめ資料小冊子を配布するので、該当する章の復習			
2. 筋（筋細胞、筋収縮のエネルギー、疲労、筋の種類）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
3. 筋感覚（筋紡錘、筋反射、大脳基底核、小脳、運動調節、運動障害）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
4. 運動生理（運動負荷と心拍数、基礎代謝、RMR、METs、エクササイズ）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
5. 自律神経系（交感神経系、副交感神経系、自律神経の中枢、視床下部）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
6. 体温調節（体温調節中枢、自律神経、発汗）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
7. 高次脳神経（本能、記憶と学習、統合機能、睡眠、脳波）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
8. 循環（循環調節、血圧、異常心電図）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
9. 呼吸（神経性調節、反射、呼吸量、酸素負債）			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
10. 内分泌（ホルモン、フィードバック、恒常性）【中村美砂】			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
11. 内分泌（続き）【中村美砂】			まとめ資料小冊子の該当する章の予習と			

				復習		
12．内分泌と神経性調節、生体システムと恒常性（恒常性維持、ストレス） 生体防御と免疫（自然免疫、獲得免疫、リンパ球）				まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習		
13．体液の平衡（体液量、電解質、アシドーシスとアルカローシス、恒常性）				まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習		
14．成長と老化（加齢変化、廃用症候群、認知症の予防）				まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習		
定期試験（期末レポート）						
15．総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40%	■レポート 3 %	■定期試験 55 %	■その他 2 %	
	基準等	全体 1/2 ほどで中間テストを 1 回行なう	提出物で評価する	中間テストと合わせて評価する	講義への参加度合いで評価する	
教科書		著者	タイトル		出版社	発行年
		KimE. Barerett, 他著 岡田泰伸 他訳	「ギャノン生理学 原書 25 版」		丸善	2017
参考文献		桑名俊一他編著	生理学		理工図書	2016
履修要件等		形態・機能学生理領域I履習済みもしくは再履修予定であること。				
研究室		1 号館 5 階 第 11 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16:20～17:50	

科目No.	FBM02-1R		授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	解剖学実習 I		担当教員	小西 正良・伊藤 隆雄		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達		必 修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学					
授業内容の要約	形態・機能学解剖領域 I いわゆる解剖学座学で学んでいる知識と並行して、特に骨格や筋肉、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。筋や骨格がどのように配されて、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手に触れ部位の名称を学び、さらに筋肉、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 上肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を毛糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる					
授業形態 授業の進め方	実習を基本とする。学生を 4 人 1 グループに編成し、各グループに骨格標本模型 1 箱を貸与する。毎回、実習の学習目標を設定して学習の達成を図る。骨名はラテン語や英語の名称で覚えることが望ましい。予め、実習要領を配布するので、それに従って予習すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 骨学実習／全身骨格の点検と照合			実習要領に沿った予習			
2. 骨学実習／椎骨の種類と数、脊柱・脊柱彎曲			実習要領に沿った予習			
3. 骨学実習／上肢帯と胸郭の骨（鎖骨、肩甲骨）と肋骨、胸骨			実習要領に沿った予習			
4. 骨学実習／自由上肢の骨（上腕骨、前腕骨、手根骨）			実習要領に沿った予習			
5. 関節学実習／主な関節の構造と運動の種類、腕神経叢の構成			実習要領に沿った予習			
6. 筋学実習／上肢帯の筋（僧帽筋、肩甲挙筋、大・小菱形筋、前鋸筋、大・小胸筋）			実習要領に沿った予習			
7. 筋学実習／上腕の筋（上腕前面の筋、上腕後面の筋）			実習要領に沿った予習			
8. 筋学実習／前腕前面の筋（浅層、手関節屈筋群）			実習要領に沿った予習			
9. 筋学実習／前腕前面の筋（深層、手関節および指関節屈筋群）			実習要領に沿った予習			
10. 筋学実習／前腕後面の筋（手関節および指関節伸筋群）			実習要領に沿った予習			
11. 筋学実習／手の筋Ⅰ母指球筋			実習要領に沿った予習			
12. 筋学実習／手の筋Ⅱ小指球筋と手掌筋			実習要領に沿った予習			
13. 筋学実習／体幹から上腕への筋／頸部前面の筋			実習要領に沿った予習			
14. 脊柱を構成する骨と脊柱の運動			実習要領に沿った予習			
定 期 試 験 （ 期 末 レ ポ ー ト ）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート	%	■定期試験 80%	□その他 %
	基準等	授業内容を理解したかの確認試験を毎回行う。レベルに達するまで行う。			定期試験中での実習試験 80%換算して判定する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第 4 版」		医学書院		2015
参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第 8 版」		医学書院		2016
	寺田 春水	「骨学実習の手引き」第 4 版		南山堂		1992

履修要件等	特段なし		
研究室	1号館5階 第12研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12 : 00～13 : 00

科目No.	FBM04-1R		授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	解剖学実習Ⅱ		担当教員	小西 正良・伊藤 隆雄		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達		必 修	1 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
授業内容の要約	形態・機能学解剖領域Ⅱ、いわゆる座学で学んだ知識を基礎として、骨格や筋肉、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。筋や骨格がどのような広がりを示し、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手にとり部位の名称を学び、さらに筋肉、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 下肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を毛糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる					
授業形態 授業の進め方	実習を基本とする。学生を 4 人 1 グループに編成し、各グループに骨格標本模型 1 箱を貸与する。毎回、実習の学習目標を設定して学習の達成を図る。骨名はラテン語や英語の名称で覚えることが望ましい。予め、実習要領を配布するので、それに従って予習すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 骨学実習／下肢の骨格照合、骨盤を構成する骨と大腿骨			実習要領に沿った予習			
2. 骨学実習／自由下肢の骨－脛骨、腓骨と股関節、膝関節の構造、運動、靱帯			実習要領に沿った予習			
3. 骨学実習／足根骨、中足骨の左右判定、半関節			実習要領に沿った予習			
4. 骨学実習／脳神経と通過する孔			実習要領に沿った予習			
5. 筋学実習／殿部の筋、大腿の筋膜			実習要領に沿った予習			
6. 筋学実習／外旋 6 筋（上下双子筋、梨状筋、内外閉鎖筋、大腿方形筋）			実習要領に沿った予習			
7. 筋学実習／大腿前面の筋（大腿 4 頭筋、縫工筋など）			実習要領に沿った予習			
8. 腰仙骨神経叢の構成			実習要領に沿った予習			
9. 筋学実習／大腿後面の筋（ハムストリングの筋）			実習要領に沿った予習			
10. 筋学実習／大腿内転の筋			実習要領に沿った予習			
11. 筋学実習／下腿前面の筋と側面の筋			実習要領に沿った予習			
12. 筋学実習／下腿後面の筋			実習要領に沿った予習			
13. 筋学実習／足部の筋			実習要領に沿った予習			
14. 筋学実習／固有背筋			実習要領に沿った予習			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート	%	■定期試験 80%	□その他 %
	基準等	授業内容を理解したかの確認試験を毎回行う。レベルに達するまで行う。			定期試験中での実習試験 80%換算して判定する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	野村 嶧	「標準理学・作業療法学 解剖学第 4 版」			医学書院	2015
参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第 8 版」			医学書院	2016

	寺田 春水	「骨学実習の手引き」第4版	南山堂	1992
履修要件等	特段なし			
研究室	1号館5階 第12研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:00～13:00	

科目№	FBM08-1R		授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	生理学実習		担当教員	坪田 裕司		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び 身体の発達		必 修	1 単位	後期（45h）
	作業療法学					
授業内容の要約	身体の異常を把握・理解する為には、正常な姿を理解しておく必要があることはいうまでもない。生理学実習では、座学の生理学で学習した内容を、実験実習を通して経験し具体性のあるイメージとして理解する。論文形式でレポートを作成し、データのまとめ方とその評価についても学習する。実習なので、3 コマ連続で行い、実験実習とその考察を班で進め、アクティブラーニング(グループワーク)を主体に進める。休憩時間等は適宜設定する。班構成は毎回ランダムに設定する。					
学修目標 到達目標	1. 人体の基本的生理機能を理解し、実習に関連する生理学的背景情報を理解できる 2. 得られた結果を自分の言葉で説明できる 3. 実習結果について他の人と論理的に討論出来る 4. 実習内容を簡潔に論文形式でまとめ、論理的な言葉と文章で考察出来る 5. 誰とでもコミュニケーションを取り課題をこなせる					
授業形態 授業の進め方	5～7 名単位で班を作り、各自が自主性を持って実験に当たる。被験者等の役目が偏らないように全員で実習すること。結果として得られたデータについては共有して、各班で討論して考察を深めるが、実習レポートは個人で作成し、自分の文章でまとめること。実験器具の準備や後片づけも積極的に責任持つて行う。運動系の人体生理実習では短パン等の軽装運動着、それ以外では白衣を着用する等、実習しやすい服装で出席すること。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. オリエンテーション				実習書を配布し留意事項等を把握する		
2. 表皮感覚（圧点痛点の分布）				実習書の該当章を理解する。		
3. データのまとめ方と報告書レポートの書き方				実習書の該当章を理解する。		
4. 腱反射				実習書の該当章を理解する。		
5. 骨格筋の収縮、拮抗筋の随意運動と筋電図				実習書の該当章を理解する。		
6. 筋疲労、腱反射時の筋電図				実習書の該当章を理解する。		
7. 運動負荷と心拍数				実習書の該当章を理解する。		
8. V02max の測定と体力評価				実習書の該当章を理解する。		
9. V02max の測定と体力評価				実習書の該当章を理解する。		
10. 運動負荷と呼吸調節、酸素負債				実習書の該当章を理解する。		
11. 運動負荷と呼吸調節、酸素負債				実習書の該当章を理解する。		
12. 運動負荷と呼吸調節、酸素負債				実習書の該当章を理解する。		
13. 血圧測定				実習書の該当章を理解する。		
14. 心電図と電気軸・循環調節と運動負荷				実習書の該当章を理解する。		
15. 心電図と電気軸・循環調節と運動負荷				実習書の該当章を理解する。		
16. 腎機能、水負荷試験と排尿量の調節				実習書の該当章を理解する。		
17. 腎機能、水負荷試験と排尿量の調節				実習書の該当章を理解する。		

18. 腎機能、水負荷試験と排尿量の調節			実習書の該当章を理解する。		
19. 神経伝導速度			実習書の該当章を理解する。		
20. 神経伝導速度			実習書の該当章を理解する。		
21. 神経伝導速度			実習書の該当章を理解する。		
22. 総括としては、個別レポート課題への添削とフォードバックをこれに当てる					
23. 総括としては、個別レポート課題への添削とフォードバックをこれに当てる					
24. 総括としては、個別レポート課題への添削とフォードバックをこれに当てる					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 5%	■レポート 40 %	■その他 55 %	□備考
	基準等	項目により課題を出す。グループワークにおける貢献度を評価する。	実習レポート（2回の提出を義務とする）を加味して評価する	実習態度、実習への参加度を重視する。特に班でのグループワークにおける貢献度を評価する。	1 回欠席者は評価 C 以上あるいは D が 2 回のレポートがないと単位が認定されない
教科書		著者	タイトル	出版社	発行年
		KimE. Barerett, 他著 岡田泰伸 他訳	「ギャノング生理学 原書 25 版」	丸善	2017
参考文献		桑名俊一他編著	生理学	理工図書	2016
履修要件等		高校生物学履習済みもしくは生物学履習中であること。			
研究室		1 号館 5 階 第 11 研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 16 : 20～17 : 50	

科目No.	FBM11-1R, FBM07-1E		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	発育発達学（含運動発達学）		担当教員	木村 秀生		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達		必 修	1 単位	後 期（30h）
	作業療法学					
	言語聴覚学	基礎医学		選択必修		
授業内容の要約	発育発達学は受精卵から始まり人の死までを論じる学問である。身体のみならず認知面も含んでおり、生きる意味とか人生における様々な問題まで広く深く考えてもらう機会になればと思います。					
学修目標 到達目標	1. 人の発達がいかなるものであるかを理解できる。 2. 人は変化し続けるものだということを知ることができる。 3. 発育発達学を通して、今までとは違った視点で人生を考えることができる。					
授業形態 授業の進め方	各々の受講者自身のこれまでの成育歴も振り返ることができるような内容で講義を進めたい。 講義の流れに沿ったディスカッションやプレゼンテーションも取り入れていきたい。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. オリエンテーション			講義内容を復習しノートにまとめる			
2. 人間発達の概念			講義内容を復習しノートにまとめる			
3. 胎児・新生児期			講義内容を復習しノートにまとめる			
4. 幼児期			講義内容を復習しノートにまとめる			
5. 学童期			講義内容を復習しノートにまとめる			
6. 学童期			講義内容を復習しノートにまとめる			
7. 成人期			講義内容を復習しノートにまとめる			
8. 高齢期			講義内容を復習しノートにまとめる			
9. 原始反射、姿勢反射			講義内容を復習しノートにまとめる			
10. 視覚の発達			講義内容を復習しノートにまとめる			
11. ハンドスキル			講義内容を復習しノートにまとめる			
12. 聴覚・言語の機能と発達			講義内容を復習しノートにまとめる			
13. 心理・社会的機能			講義内容を復習しノートにまとめる			
14. まとめ			講義内容を復習しノートにまとめる			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）			講義内容の復習			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%		□その他 %
	基準等			教科書及び配布資料から 出題し理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	福田 恵美子	人間発達学		中外医学社		2017
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1 号館 5 階 第 16 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 9:30～10:30		

科目No.	FBM10-1E, FBM06-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	医学概論		担当教員	岡田 守弘		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達		選択必修	1 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	基礎医学	必 修			
授業内容の要約	近年療法士はチーム医療の一員としての役割が増大し、他職種との連携がますます重要となっている。このため、専門領域のみならず幅広い医学知識が要求される。本講座では医療人として、チーム医療の一員として必要な医学的知識の習得を目指す。					
学修目標 到達目標	1. 医療人としての倫理観をもって患者対応ができる 2. 医療の現状を理解し、チーム医療を実践できる 3. 本講座で学んだ医学的知識を専門科目の学習や臨床現場で応用することができる					
授業形態 授業の進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学の知識が必要である。これらの科目を併行して学習しておくことが望ましい。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 医学の基本（教科書 pp3～14）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
2. 医学の歴史（教科書 pp14～30）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
3. 人体の機能と構造（教科書 pp31～42）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
4. 環境・文化と人間の健康（教科書 pp43～54）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
5. 病気の基本（教科書 pp55～68）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
6. 病因・病態別の病気の分類（教科書 pp69～86）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
7. 器官・領域別の病気の種類（教科書 pp87～104）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
8. 病気の診断（教科書 pp105～116）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
9. 病気の治療と予防（教科書 pp116～130）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
10. 医療の基本（教科書 pp131～158）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
11. 医療の現場（教科書 pp159～190）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
12. 社会医学の視点：公衆衛生学（教科書 pp191～204）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
13. 予防医療、社会の医療情勢と医療体制（教科書 pp205～222）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
14. 医療法規と医療行政（教科書 pp223～242）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
15. 試験						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	■定期試験 80%	■その他 20 %
	基準等				定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	中島泉	医学概論		南江堂		2015
参考文献	特に指定しない					
履修要件等	形態・機能学、一般臨床医学を履修しておくことが望ましい					
研究室	1 号館 5 階 第 15 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 10:40～12:10		

科目No.	FCM01-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	整形外科科学 I		担当教員	梅本 美咲		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必 修	1 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
授業内容の要約	本講義では運動器の働きを中心となる骨、関節、筋、神経の機能や病態との関係について学び、診断や治療へ結びつける。また、関節リウマチと類似疾患、慢性関節疾患、代謝性骨疾患、先天性骨系統疾患、骨・軟部腫瘍など疾患総論についても学修する。					
学修目標 到達目標	1. 整形外科的診断法および検査法について理解できる 2. 運動器疾患の病態、症状、治療法が理解できる 3. 整形外科分野における全身性疾患について理解できる					
授業形態 授業の進め方	パワーポイントを中心として参考資料としてプリントを配布する					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 整形外科とは			指定された教科書を読んでおくこと			
2. 診断総論 1. (問診)			指定された教科書を読んでおくこと			
3. 診断総論 2. (視診)			指定された教科書を読んでおくこと			
4. 診断総論 3. (検査 1)			指定された教科書を読んでおくこと			
5. 診断総論 4. (検査 2)			指定された教科書を読んでおくこと			
6. 治療総論 1. (保存療法 1)			指定された教科書を読んでおくこと			
7. 治療総論 2. (保存療法 2)			指定された教科書を読んでおくこと			
8. 治療総論 3. (手術療法)			指定された教科書を読んでおくこと			
9. 関節リウマチと類似疾患 1.			指定された教科書を読んでおくこと			
10. 関節リウマチと類似疾患 2.			指定された教科書を読んでおくこと			
11. 慢性関節疾患			指定された教科書を読んでおくこと			
12. 代謝性骨疾患			指定された教科書を読んでおくこと			
13. 先天性骨系統疾患、循環障害と壊死性疾患			指定された教科書を読んでおくこと			
14. 骨・軟部腫瘍			指定された教科書を読んでおくこと			
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 70%
	基準等					■その他 30 %
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	中村利孝 ほか	標準整形外科学 第 1 3 版		医学書院		2017 年
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM09-1R, FCM01-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	一般臨床医学		担当教員	岡田 守弘		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必 修	1 単位	後 期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
授業内容の要約	本学カリキュラムで比較的授業時間の多い内科学、精神医学、整形外科学のほかにも、多くの疾患に精通しておくことは医療人にとって必須である。本講座では救急医学、皮膚科学、産婦人科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、老年医学などについて、医療人として「これだけは知っておいてほしい」疾患を中心に解説する。					
学修目標 到達目標	1. PT, OT, ST にとって必要な医学知識を習得できる 2. 学んだ疾患の知識を専門科目の学習に生かすことができる 3. 学んだ疾患の知識を臨床現場で応用することができる					
授業形態 授業の進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学の知識が必要である。これらの科目を併行して学習しておくことが望ましい。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 概論			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 救急医療 (教科書 p1~11)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 外科総論 (教科書 p13~21)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 脳神経外科総論 (教科書 p23~30)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 皮膚疾患① (教科書 p35~55)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 皮膚疾患② (教科書 p35~55)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 泌尿器科疾患① (教科書 p57~73)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 泌尿器科疾患② (教科書 p57~73)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
9. 婦人科・産科疾患① (教科書 p75~92)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
10. 婦人科・産科疾患② (教科書 p75~92)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
11. 眼疾患 (教科書 p97~103)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
12. 耳鼻咽喉科疾患① (教科書 p105~116)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
13. 耳鼻咽喉科疾患② (教科書 p105~116)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
14. 老年医学 (教科書 p119~12)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	□レポート	■定期試験 80 %		■その他 20 %
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。		授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	椿原彰夫ら	PT・OT・ST のための一般臨床医学 第3版			医歯薬出版社	2014
参考文献	特に指定しない					
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい					
研究室	1 号館 5 階 第 15 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 10:40~12:10		

科目No.	FSW01-1R, FSL01-1R			授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	リハビリテーション概論 (含地域リハビリテーション)			担当教員	酒井 桂太		
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間
	理学療法学	社会福祉とリハビリの理念			必 修	1 単位	前 期 (30h)
	作業療法学						
	言語聴覚学						
授業内容の要約	リハビリテーションの歴史、理念と社会的使命、地域におけるリハビリテーションの取り組みなど包括的な見地からリハビリテーションの考え方を学ぶ。さらにリハビリテーション領域の専門性と考え方、またチームアプローチの重要性を理解するなかでリハビリテーション・マインドを育む。						
学修目標 到達目標	1. リハビリテーションの理念、役割が理解できる 2. 疾病と障害の構造について理解できる 3. リハビリテーション過程や各専門職が理解できる						
授業形態 授業の進め方	指定テキストをもとに講義形式にて授業を行う。また、適宜参考資料を配布する。						
授業計画					授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 医療福祉現場でのリハビリテーションの役割 (教科書 pp110-115)					PT・OT・ST の役割について復習する		
2. リハビリテーション、IL 運動、ノーマライゼーションの概念 (教科書 pp1-17)					リハビリテーションの理念について復習する		
3. 健康と疾病 (教科書 pp19-21)					健康とは何かについて復習する		
4. 障害とは (1) 国際障害分類 (教科書 pp21-23)					ICIDH について復習する		
5. 障害とは (2) 国際生活機能分類 (教科書 pp23-26)					ICF について復習する		
6. 障害の心理と障害受容 (教科書 pp37-38、47-48)					障害の受容過程について復習する		
7. 防衛機制 (教科書 pp38-42)					各種の防衛機制について復習する		
8. リハビリテーション過程 (教科書 pp69-80)					リハビリテーションの流れについて復習する		
9. リハビリテーションの諸段階 (教科書 pp81-98)					リハビリテーションの分野について復習		
10. インフォームドコンセント、医療安全システム (教科書 pp99-104)					インフォームドコンセントについて復習する		
11. 個人情報保護、EBM、NBM (教科書 pp104-109)					EBM と NBM について復習する		
12. チームアプローチとクリニカルパス (教科書 pp117-128)					クリニカルパスについて復習する		
13. ADL、QOL の概念 (1) (教科書 pp129-135)					ADL の評価法について復習する		
14. ADL、QOL の概念 (2) (教科書 pp135-138)					QOL について復習する		
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)							
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	☑定期試験 100%		□その他 %	
	基準等			筆記試験にて理解度を評価する			
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年
	上好昭孝 ほか	「医学生・コメディカルのための手引書リハビリテーション概論 第 3 版」			永井書店		2014
参考文献	特になし						
履修要件等							
研究室	1 号館 1 階 理学療法専攻長室			オフィスアワー	毎週月曜日 14 : 40～16 : 10		

科目No.	FSW02-1E, FSL02-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	社会保障制度		担当教員	野村 和樹		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	社会福祉とリハビリの理念		選択必修	1 単位	後 期 (30h)
	作業療法学			必 修		
	言語聴覚学					
授業内容の要約	今日の社会保障の理念をはじめ、その現状、法体系、社会保障をめぐる情勢などを概観し、社会保険、公的扶助、社会福祉、医療・公衆衛生の制度の概要および基礎的知識を習得する。また、今日問題となっている事例を取り上げ、実際の社会保障の施策を検証する。					
学修目標 到達目標	1. 社会保障の理念が理解できる 2. 日本の社会保障制度を大別でき、それぞれの現状が理解できる 3. 社会保障の各種制度についての法規やしくみ、具体的内容、運用等について説明できる					
授業形態 授業の進め方	講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4 版のファイルを用意すること。講義内で知識の整理を図るため小テストを実施					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 「社会保障」における社会保険				社会保険の役割を整理すること		
2. 社会保障制度の歩み 日本における社会保障制度の歴史と特徴				社会保障制度の特徴をまとめること		
3. 「医療」に関わる保障Ⅰ 医療保障における医療保険の役割				医療保険の役割を整理すること		
4. 「医療」に関わる保障Ⅱ 日本の医療保障制度				医療保障の仕組みを整理すること		
5. 医療保険制度Ⅰ 日本における医療保険の制度と仕組み				医療保険制度をまとめること		
6. 医療保険制度Ⅱ 日本における医療保険の種類				医療保険の種類をまとめること		
7. 介護保険制度Ⅰ 介護保険制度の制定				介護保険制度制定までの過程を整理すること		
8. 介護保険制度Ⅱ 介護保険制度の仕組み				介護保険制度をまとめること		
9. 雇用保険, 労災保険, 年金保険制度				それぞれの社会保険制度をまとめること		
10. 社会手当				社会手当の制度を整理すること		
11. 公的扶助 生活保護制度Ⅰ 生活保護制度の理解				生活保護制度について整理すること		
12. 公的扶助 生活保護制度Ⅱ 生活保護制度の理解				生活保護制度の運用について整理すること		
13. 貧困問題 児童の貧困の実情, 貧困率				児童の貧困問題についてまとめること		
14. 社会保障制度				共助、公助の視点にたつて社会保障制度を整理すること		
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 10%	
	基準等	単元終了字に講義内小テストを実施		全般に渡る範囲から理解度をはかる。	要点を整理したプリントを作成	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	各項目に応じてレジュメを配布する					
参考文献	講義内で適宜紹介する					
履修要件等	社会福祉学 (前期開講) を受講されていることが望ましい					
研究室	1 号館 4 階第 1 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:00～13:00		

科目No.	SPT21-1E, SOT16-1R, FSL10-1E		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	園芸療法		担当教員	田崎 史江		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2 単位	前 期 (30h)
	作業療法学	作業療法治療学		必 修		
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念		選択必修		
授業内容の要約	園芸療法の基礎的な知識を学ぶ。園芸療法の対象者となるクライアントのニーズや課題、必要なサポート等をとらえ、園芸療法を通じたアプローチ方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 園芸療法の対象者のニーズや課題が理解できる 2. 園芸療法の効果や方法を説明できる 3. 園芸療法を系統立てて考えられる					
授業形態 授業の進め方	授業は課題を提示するので、受講者は授業に予習した上で参加すること。課題は提出。基本的に授業は講義形式で行うが、園芸療法関連授業内で高齢者施設へ訪問園芸療法を行うので、準備をふまえた実践的な内容も含む。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. オリエンテーション 資格取得について、学生アセスメントシート			園芸療法関連授業専用ファイルを準備する			
2. 園芸療法 (HT) とは：園芸療法の「定義」「歴史」「代替療法」			課題① 初回授業に提示する			
3. HT 目的と手技 1：「高齢者」「認知症」高齢者施設での実践紹介			課題② 初回授業に提示する			
4. HT 目的と手技 2：「知的障がい・発達障がい」「特別支援学校」「就労支援」			課題③ 初回授業に提示する			
5. HT 目的と手技 3：「身体障がい」身体機能へのアプローチ (久利先生)			課題④ 初回授業に提示する			
6. HT 目的と手技 4：「精神障がい」精神心理機能へのアプローチ			課題④ 初回授業に提示する			
7. HT 目的と手技 5：「子ども」「地域活動」「園芸福祉」			課題⑥ 初回授業に提示する			
8. HT の進め方 1：概要と手順			課題⑦ 初回授業に提示する			
9. HT の進め方 1：対象者の評価			課題⑧ 初回授業に提示する			
10. HT 場面のリスクマネジメント 1			課題⑨ 初回授業に提示する			
11. HT 場面のリスクマネジメント 2			課題⑩ 初回授業に提示する			
12. HT 現場の問題と解決法、園芸療法を始めるための準備 1			課題⑪ 初回授業に提示する			
13. HT 現場の問題と解決法、園芸療法を始めるための準備 2			課題⑫ 初回授業に提示する			
14. 前期授業の総復習と前期試験のための準備			授業で使用した資料・課題をまとめる			
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)			試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う			
成績評価方法	項目	■課題 10 %	■レポート 10 %	■定期試験 70 %	■その他 10 %	
	基準等	授業予習としての課題の実施を評価する。	施設訪問時にレポートを課す。参加者の観察や自分の動きが考察できているかを評価する。	定期試験を実施し、授業内容の理解度を評価する。	欠席・遅刻、授業態度、グループにおける貢献度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない。各回において講義資料を配布する。					
参考文献	山根寛 ほか	「園芸リハビリテーション」		医歯薬出版株式会社		2003
	山根寛	「ひとと植物・環境 療法として園芸を使う」		青海社		2009
履修要件等	「園芸論」「ガーデニング」を履修することが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。					
研究室	1 号館 5 階 第 2 共同研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00		

科目No.	SPT23-1E, SOT18-1E, FSL12-1E		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	ガーデニング		担当教員	村井 恵		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2 単位	前 期 (30h)
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念				
授業内容の要約	園芸療法を行うために、植物の栽培・管理などの基礎的園芸作業の理解と技術を習得する。季節に応じた植物の選択と育て方、栽培計画、収穫物の利活用を体験し学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 園芸植物の栽培・管理・収穫物の利活用ができる 2. 園芸植物の栽培記録を毎回書くことで変化に気付き、必要な手入れができる 3. 園芸植物の栽培に必要な情報を収集・整理し、春夏野菜の栽培計画書の作成ができる					
授業形態 授業の進め方	主に第2イネーブルガーデンにて授業を行う。天候により内容が変更となる場合もある。教科書に沿って講義と実習で進めていく。受講者は作業に適した服装（初回講義時に連絡）で参加すること。本科目は「園芸論」と連続して授業を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. オリエンテーション、栽培計画書・野菜の栽培記録について				次週範囲の予習をしておくこと		
2. 園芸の技術①道具、土づくり、野菜の選択（教科書 P8、9、26、30）				授業の復習と次週範囲の予習をしておくこと		
3. 園芸の技術②野菜苗の定植、播種、灌水（教科書 P13、16、18、23、86）				授業の復習と次週範囲の予習をしておくこと		
4. 園芸の技術③花卉の選択・播種（教科書 P12、17）				授業の復習と次週範囲の予習をしておくこと		
5. 園芸の技術④基本の管理作業、栽培計画（教科書 P20、21、134～141）				授業の復習と次週範囲の予習をしておくこと		
6. 園芸の技術⑤施肥、本支柱立て（教科書 P14、15、18）				授業の復習と次週範囲の予習をしておくこと		
7. 訪問園芸療法について、園芸療法プログラム体験「梅仕事」				授業の復習をしておくこと		
8. 施設訪問 1:訪問 FB、野菜の手入れ				授業の復習をしておくこと		
9. 施設訪問 2:訪問 FB、野菜の手入れ				授業の復習をしておくこと		
10. 施設訪問 3:訪問 FB、野菜の手入れ				授業の復習をしておくこと		
11. 園芸の技術⑥病虫害対策（教科書 P127～133）				授業の復習と次週範囲の予習をしておくこと		
12. 園芸の技術⑦挿し木				授業の復習をしておくこと		
13. 感謝祭計画・準備、畑の片づけ						
14. 感謝祭、畑の片づけ、栽培計画書提出						
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）、栽培計画書返却				試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う		
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 30 %	■定期試験 60 %	□その他 %	
	基準等	春夏野菜の栽培計画書の作成を課題とし、内容を評価する	栽培記録（計10回）をレポートとし、内容を評価する	定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	藤田智	「成功するコンテナ菜園」		NHK 出版		2013
参考文献						
履修要件等	「園芸療法」「園芸論」も履修することが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は「ガーデニング」「園芸療法」「園芸論」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。					
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SPT22-1E, SOT17-1E, FSL11-1E		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	園芸論		担当教員	村井 恵		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2 単位	前 期 (30h)
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念				
授業内容の要約	園芸とは何かを理解し、園芸療法で用いる植物全般に関する知識の習得を目指す。植物の特性や季節に応じた植物の利活用、園芸文化を知ること、人と植物の関わりを学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 園芸植物を理解し、名前を言うことができる 2. 園芸療法の目的に沿い、クライアントに適した植物を選択できる 3. 季節に応じた植物の利活用ができる					
授業形態 授業の進め方	資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。関連施設を訪問しての園芸活動のレクチャーなど、相手に伝える練習も行う。受講者は日頃より植物に関心をもち、植物を育てたり、植物の利活用の面白さを体験すること。本科目は「ガーデニング」と連続して授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. オリエンテーション、園芸とは、園芸の歴史			授業の復習をすること			
2. 植物の分類①花卉・野菜			小テストに向けて、授業の復習をすること			
3. 植物の分類②樹木・観葉植物・ハーブ、小テスト 1			小テストに向けて、授業の復習をすること			
4. 植物の生活①栄養成長、小テスト 2			小テストに向けて、授業の復習をすること			
5. 植物の生活②生殖成長、小テスト 3			小テストに向けて、授業の復習をすること			
6. 植物の生活①養分の吸収・光合成と環境要因、小テスト 4			小テストに向けて、授業の復習をすること			
7. 植物の生活②栽培環境・病虫害・雑草とその制御、小テスト 5			授業の復習をすること			
8. 施設訪問 1:園芸療法実践、プログラム体験「梅ジュース作り」			授業の復習をすること			
9. 施設訪問 2:園芸療法実践、プログラム体験「フラワーアレンジメント」			授業の復習をすること			
10. 施設訪問 3:園芸療法実践、プログラム体験「押し花クラフト」			小テストに向けて、授業の復習をすること			
11. 植物の生活③繁殖、機能と利活用、小テスト 6			植物名テストに向けて、授業の復習をすること			
12. 有毒植物・危険な虫類とその対策、植物名テスト			授業の復習をすること			
13. 現在の園芸事情（国内・海外）			授業の復習をすること			
14. 全体復習			授業で使用した資料を確認し、復習をすること			
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）			試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40 %	□レポート %	■定期試験 60 %	□その他 %	
	基準等	授業内で行う小テスト6回と植物名テスト1回の成績を評価する		定期試験を実施する。 授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に教科書は指定しない。各回において講義資料を配布する。					
参考文献	鈴木正彦ほか	「園芸学の基礎」		農文協		2012
履修要件等	「園芸療法」「ガーデニング」も履修することが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。					
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SPT24-1E, SOT19-1E, FSL13-1E			授業形態	実習	開講年次	1 年次		
授業科目名	園芸療法実習 I			担当教員	田崎 史江				
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間		
	理学療法学	理学療法治療学			選択必修	1 単位	後 期 (30h)		
	作業療法学	作業療法治療学							
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念							
授業内容の要約	園芸療法士となるために、園芸療法実習を行い実践から学ぶ。療法の対象者の情報収集、ニーズや課題から目標を設定、園芸療法プログラムの立案、観察方法、特性のとらえ方を体験する。								
学修目標 到達目標	1. 園芸療法の対象者のニーズや課題をあげることができる 2. 対象者のニーズや課題に沿った目標設定ができる 3. 植物や園芸作業を用いたアプローチ・サポート方法を考え、実践できる								
授業形態 授業の進め方	プリントやワークシートなどの資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。実習では振り返りの時間を取り、理解の確認を行う。本科目は園芸療法実習Ⅱと連続して授業を行う。								
授業計画					授業時間外に必要な学修		30 分以上		
1. オリエンテーション 授業の進め方・授業目標確認 チーム分け					園芸療法関連授業専用のファイルを準備する				
2. 園芸療法プログラム実習 1：プログラム実習の説明 園芸療法の評価方法 紹介					園芸療法評価に関する文献を読む				
3. 園芸療法プログラム実習 2：プログラム計画・準備					前期に訪問した施設の利用者を振り返り、園芸療法対象者として適したプログラムを考える				
4. 園芸療法プログラム実習 3：プログラム実習と振り返り					自分の役割を振り返り施設訪問時の対策として考える、プログラムの修正を行う				
5. 園芸療法プログラム実習 4：プログラム実習と振り返り									
6. 園芸療法プログラム実習 5：プログラム実習と振り返り									
7. 園芸療法プログラム実習 6：施設訪問プログラムの計画・準備					施設訪問時の自分の動きを振り返り、対象者への影響・もたらした成果を考える 園芸療法時の対象者の評価を行う				
8. 園芸療法プログラム実習 7：施設訪問園芸療法実習と振り返り									
9. 園芸療法プログラム実習 8：施設訪問園芸療法実習と振り返り									
10. 園芸療法プログラム実習 9：施設訪問園芸療法実習と振り返り									
11. 園芸療法評価のまとめ、担当対象者の作業特性のまとめ					評価のまとめと妥当性を他者評価と比較する				
12. 園芸療法プログラム体験 1：クリスマス クラフト					クリスマスの季節の屋内活動を考える				
13. 園芸療法プログラム体験 2：門松作成					「門松」について調べておく				
14. 後期授業の総復習と後期試験のための準備					授業で使用した資料・課題をまとめる				
定期試験（期末レポート）									
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	20 %	■定期試験	70 %	■その他	10 %
	基準等				HTプログラム実習のレポート、園芸療法評価記録を課す。		定期試験を実施し、授業内容の理解度を評価する。		欠席・遅刻、授業態度により減点する。
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	特に指定しない。各回において講義資料やワークシートを配布する。								
参考文献	山根寛 ほか	「園芸リハビリテーション」			医歯薬出版株式会社		2003		
	山根寛	「ひとと植物・環境 療法として園芸を使う」			青海社		2009		
履修要件等	「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」が履修済みであることが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。								
研究室	1 号館 5 階 第 2 共同研究室			オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00				

科目No.	SPT25-1E, SOT20-1E, FSL14-1E		授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	園芸療法実習Ⅱ		担当教員	村井 恵		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1 単位	後 期 (30h)
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念				
授業内容の要約	園芸療法を行うために、植物の栽培・管理などの基礎的園芸作業の理解と技術を習得する。季節に応じた植物の選択と育て方、園芸療法プログラムの計画・実践を通じて植物の利活用を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 園芸植物の栽培・管理ができる 2. 園芸療法に用いる植物情報の収集・整理をし、秋冬野菜の栽培計画書の作成ができる 3. 園芸植物の利活用方法を提案・指導ができる					
授業形態 授業の進め方	主に第2イネーブルガーデンにて授業を行う。天候により内容が変更になる場合もある。資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。受講者は作業に適した服装（初回講義時に連絡）で参加すること。本科目は「園芸療法実習Ⅰ」と連続して授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. オリエンテーション、畑の土づくり、栽培計画書・記録について			自分が育てる野菜について調べておく			
2. 秋冬野菜の苗の定植、播種			授業の復習と次週必要な手入れを調べる			
3. 野菜の手入れ			授業の復習と次週必要な手入れを調べる			
4. 野菜の手入れ			授業の復習と次週必要な手入れを調べる			
5. 園芸療法プログラム実習：プログラム実習と振り返り			授業の復習と次週必要な手入れを調べる			
6. 野菜の手入れ（施肥）			授業の復習と次週必要な手入れを調べる			
7. 施設訪問プログラムの計画・準備、野菜の手入れ			授業の復習と次週必要な手入れを調べる			
8. 施設訪問園芸療法実習の振り返り、野菜の手入れ			授業の復習と次週必要な手入れを調べる			
9. 施設訪問園芸療法実習の振り返り、野菜の手入れ			授業の復習と次週必要な手入れを調べる			
10. 施設訪問園芸療法実習の振り返り、野菜の手入れ			授業の復習と「寄せ植え」について調べる			
11. 園芸療法プログラム体験「秋冬の花苗と球根の寄せ植え」			授業の復習と「暦」について調べる			
12. 暦について			授業の復習をする			
13. 感謝祭計画・準備、畑の片づけ						
14. 感謝祭、畑の片づけ、栽培計画書提出						
定 期 試 験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）			試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 30 %	■定期試験 60 %	□その他 %	
	基準等	秋冬野菜の栽培計画書の作成を課題とし、内容进行评估する	栽培記録（計10回）をレポートとし、内容进行评估する	定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	藤田智	「成功するコンテナ菜園」		NHK 出版		2013
参考文献						
履修要件等	「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」が履修済みであることが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。					
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SBP01-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	理学療法学概論		担当教員	古井 透		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
授業内容の要約	理学療法士を目標に入学したものの新入生の少なからずの諸君には、理学療法について部分的な知識しかなく、実感が乏しい状態が予想される。そこで、本講では理学療法を概説し、リハビリテーション・マインドや理学療法士の現実を伝えながら、今後4年間学修していく道程を示す。					
学修目標 到達目標	1. これから学修する科目が理学療法とどう関係するか理解できる。 2. 理学療法と作業療法と言語療法の違いを説明ができ、理学療法の魅力を実感できる。 3. 医療職としての覚悟を決め、セラピストになるための動機づけを強める。					
授業形態 授業の進め方	次の授業の教科書範囲を予習し、解らない 2 つの項目について自分で調べ記入しておく、それ以外に適切な質問を 2 つ考え、所定の用紙に書き授業前に提出する。第 1 回目の授業を除き、毎回前回の授業内容に関する小テスト（20 問程度の穴埋め問題）を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 1990 年地域で働いていたある理学療法士の仕事			理学療法の定義・技術・歴史 TEXT(p 1-11)			
2. 演習(1)・・・立ち上がり動作 → グループワーク・発表			リハビリテーション・ICF (p11-22)			
3. リハビリテーション医療の流れと専門職種			法律・使命・倫理・対象領域 (p23-56)			
4. 医療保険と急性期・回復期・療養期病院			臨床的思考・クリニカルパス・仕事 (p57-94)			
5. 【特別講義】大学病院での理学療法			(p91-147)			
6. 理学療法士の職能			理学療法士の職能 (p95-104)			
7. 理学療法（士）教育 105-125			理学療法（士）教育(p105-125)			
8. 【特別講義】一般病院での理学療法			(p91-113、148-163)			
9. 神経系理学療法概論（小児理学療法含む）			シラバス・履修の手引き			
10. 運動器系理学療法概論（スポーツリハビリテーション含む）			シラバス・履修の手引き			
11. 感染予防とリスク管理			感染予防 (p174-176)			
12. 理学療法士による研究活動について			理学療法研究(p137-153)			
13. 理学療法部門でのマネジメントについて			理学療法士と報酬(p155-169)			
14. 医療倫理と事故予防について			医療事故 (p169-174)			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）臨床実習心			理学療法記録とまとめ方 (p64-68)			
成績評価方法	項目	☑課題・小テスト 30%	□レポート %	☑定期試験 70 %	□その他 0%	
	基準等	2項目の調べと2つの疑問、前週確認テストの提出状態、到達度を、0・1・2点で評価する。		「～について述べよ」式のA3用紙への記述試験で、概念の理解、論旨の明確さ、専門用語の適切な使用を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	中島喜代彦, 森田正治, 久保田章仁編	理学療法概論テキスト(改訂第3版)		南江堂		2017
参考文献	浅香 満ほか	理学療法概論		中山書店		2017
	矢口 拓宇	患者さんが見る見る元気になるリハビリ現場の会話術		秀和システム		2017
履修要件等	自身の生活姿勢や学習態度を、最高学府に在籍するに相応しく変革させる覚悟を持って臨むこと。					
研究室	1 号館 5 階 第 2 0 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 11:40～12:40		

科目No.	SBP02-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	基礎運動学		担当教員	岡 健司		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
授業内容の要約	人間の身体運動のしくみを理解する運動学は、基礎理学療法学における柱の一つである。当科目では、身体運動を成り立たせる関節運動を、数学的・物理学的立場から解釈する視点を身につけることを目的とする。					
学修目標 到達目標	1. 力学的観点から、身体運動の特徴を説明することができる 2. 単関節運動を成立させる骨関節構造と力学的背景を説明することができる					
授業形態 授業の進め方	主として講義を行う。基礎運動学実習と連動した授業とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 転倒を通して「運動」を考える			教科書第 1 章 1・2 の予習、講義の復習			
2. 運動の基礎（距離・速度・加速度など）			教科書第 1 章 3 の予習、講義の復習講義の復習			
3. 重心と支持面・支持基底面			教科書第 5 章の予習、講義の復習			
4. テコの原理と力のモーメント（トルク）			教科書第 1 章 6 の予習、講義の復習			
5. ニュートンの運動法則			教科書第 1 章 4 の予習、講義の復習			
6. 仕事・仕事率・エネルギー			教科書第 1 章 5 の予習、講義の復習			
7. 運動量と力積			講義の復習			
8. 関節における凹凸の法則			講義の復習			
9. OKC（開放運動連鎖）と CKC（閉鎖運動連鎖）			講義の復習			
10. 運動学習			教科書第 7 章の予習、講義の復習			
11. 主要下肢関節の運動			教科書第 3 章、解剖学（下肢）の予習・復習			
12. 主要上肢関節の運動			教科書第 2 章、解剖学（上肢）の予習・復習			
13. 立ち上がりの運動学			講義の復習			
14. 歩行の運動学			教科書第 6 章の予習、講義の復習			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）			講義の復習			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート	■定期試験 80%		□その他 %
	基準等	授業内で随時、確認テストを行う。		筆記試験を実施する。授業全般の内容について理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	中島雅美	『メディカル・イメージブック運動学』		医歯薬出版		2010
参考文献	中村隆一 他	『基礎運動学第 6 版』		医歯薬出版		2007
履修要件等						
研究室	岡：1 号館 4 階 第 2 研究室 小太：1 号館 4 階 第 3 研究室		オフィスアワー	岡：毎週火曜日 12:00～13:00 小太：毎週木曜日 12:10～13:00		

科目No.	SBP03-1R		授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	基礎運動学実習		担当教員	小峯 武隆		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
授業内容の要約	基礎運動学実習とは基礎運動学で学習した内容を自己の身体や他者の身体を扱うことで、知識を整理することで、人間の身体運動のしくみを理解する学問である。この基礎運動学実習では、日常生活にあふれる自然科学の現象にふれ、身近な生活の中で、現象学的立場に立って観察の視点や実際の動作を体得することを目的とする。					
学修目標 到達目標	1. 身近な環境や生活が自然科学であること認識できる 2. 自然科学を観察するために数学・物理学的視点の重要性を理解できる					
授業形態 授業の進め方	適切な出席状況と授業態度対応が難しい学生には、厳重に注意を促す。 講義と実技を混ぜながら行うため、迅速に行動すること。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		60 分以上
1. 運動を図で表す意味を考える				今回の復習		
2. 力学の基礎Ⅰ（運動を図で表す）				今回の復習		
3. 力学の基礎Ⅱ（支持面・支持基底面を図で表す）				今回の復習		
4. 力学の基礎Ⅳ（テコの原理を図で表す）				今回の復習		
5. 力学の基礎Ⅴ（質量中心の演習；支持基底面を図で表す）				今回の復習		
6. 力学の基礎Ⅵ（仕事・エネルギーを考える）				今回の復習		
7. 力学の基礎Ⅶ（運動量と力積を図で表す）				今回の復習		
8. 関節運動を経験し学習する。				今回の復習		
9. 運動連鎖を経験し学習する。				今回の復習		
10. 運動学習を経験し学習する。				今回の復習		
11. 上肢の運動学（上肢運動のランドマークと ROMⅠ）				解剖学の予習		
12. 上肢の運動学（上肢運動のランドマークと ROMⅡ）				解剖学の予習		
13. 下肢の運動学（下肢運動のランドマークと ROMⅠ）				解剖学の予習		
14. 下肢の運動学（下肢運動のランドマークと ROMⅡ）				解剖学の予習		
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30 %	■レポート 20 %	■定期試験 50 %	□その他 %	
	基準等	各授業での確認テスト	全授業内容のレポート提出	実技試験		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1 号館 4 階第 3 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12：10～12：50		

科目No.	SPE01-1R		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	理学療法計測法		担当教員	肥田 光正		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必 修	2 単位	後 期 (30h)
授業内容の要約	理学療法評価の一手段である検査・測定のうち、本講では、問診、バイタルサインや身体計測、関節可動域測定について、その意義・目的・方法・手順・結果の解釈・注意事項などを学習する。					
学修目標 到達目標	1. 使用器具の取り扱いに注意し、計測（測定）することができる。 2. 形態計測や関節可動域測定法の方法・手順・注意事項を理解し、健常者に対して正確に測定を実施できる。					
授業形態 授業の進め方	”講義と実技練習を行う。実技練習は複数名のグループワークの形式で実施する。また、授業の復習のため、授業開始前に小テストを実施する。学修した実技をプレゼンテーションする時間も適宜設ける。 授業では、骨指標を触察する。骨の名称と部位を復習しておくことが望ましい。”					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 計測法総論、医療面接			医療面接技法についてのまとめ			
2. 形態計測(1) 形態測定総論。姿勢の観察、身長・体重・BMI			姿勢の観察の復習			
3. 形態計測(2) 四肢長			四肢長の測定方法の復習			
4. 形態測定(3) 四肢周径			四肢周径の測定方法の復習			
5. バイタルサイン（血圧・脈拍）			血圧、脈拍測定の復習			
6. 関節可動域測定総論			関節可動域測定についてのまとめ			
7. 関節可動域測定(1) 股関節			股関節の可動域測定の復習			
8. 関節可動域測定(2) 膝関節、足関節			膝関節・足関節の可動域測定の復習			
9. 関節可動域測定(3) 足部、肩甲帯			足部・肩甲帯の可動域測定の復習			
10. 関節可動域測定(4) 肩関節			肩関節の可動域測定の復習			
11. 関節可動域測定(5) 肘関節、前腕			肘関節・前腕の可動域測定の復習			
12. 関節可動域測定(6) 手関節			手関節の可動域測定の復習			
13. 関節可動域測定(7) 頸部、体幹			頸部・体幹の可動域測定の復習			
14. 形態測定、関節可動域測定の総合復習						
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 35%	□レポート %	■定期試験 60%	■その他 5%	
	基準等	毎回の授業開始時には、小テストを実施する。また実技試験を実施する。		実習で学習した知識を中心に出题する。	授業態度やグループワーク参加の積極性を吟味する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	潮見泰藏ほか	「リハビリテーション基礎評価学」		羊土社		2014
参考文献	内山 靖	《標準理学療法学 専門分野》理学療法評価学		医学書院		2004
履修要件等						
研究室	3 号館 2 階 第 27 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 13:00 ～ 14:30		

科目No.	SPT01-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	物理療法学		担当教員	肥田 光正		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
授業内容の要約	理学療法の治療手段である物理療法について、その歴史と定義をふまえ、各物理療法手段における生理学的作用・目的・対象・適応・禁忌などを学習し、実際の治療にどのように適応していくことができるのかを学習する。					
学修目標 到達目標	1. 物理療法の歴史と定義を学習し、理学療法での位置付けを学習する 2. 各物理療法手段の生理学的作用を理解する 3. 各物理療法手段の目的・対象・適応・禁忌などを理解する					
授業形態 授業の進め方	講義中心に授業をすすめ、必要時には、適宜、資料を配布する。毎回の授業開始時には、前回の復習を目的とした小テストを実施する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 物理療法学総論① 物理療法の種類、物理療法の歴史や役割			小テストを実施するため、各授業後には必ず復習をしておくこと			
2. 物理療法の対象となる病態 ①-1 関節可動域制限のメカニズム						
3. 物理療法の対象となる病態 ①-2 関節可動域制限の評価						
4. 物理療法の対象となる病態 ②-1 疼痛 急性痛とそのメカニズム						
5. 物理療法の対象となる病態 ②-2 疼痛 慢性痛とそのメカニズム						
6. 物理療法の対象となる病態 ③炎症、筋緊張						
7. 温熱療法総論						
8. 温熱療法各論 表在性温熱療法						
9. 温熱療法各論 深達性温熱療法 ①極超短波療法						
10. 温熱療法各論 深達性温熱療法 ②超音波療法						
10. 寒冷療法と水治療法						
11. 電気刺激療法総論						
12. 電気刺激療法 TENS と NMES, バイオフィードバック療法						
14. 圧迫療法、牽引療法						
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15 %	□レポート %	■定期試験 80 %	■その他 5 %	
	基準等	授業開始時に小テストを実施する。		授業で教授した範囲から出題する。		授業態度、授業参加の積極性を総合して評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	庄本康二ほか	エビデンスから身につける物理療法		羊土社		2017
参考文献	松澤 正ほか	「物理療法学」		金原出版		2012
	Michelle H. Cameron 原著／渡部一郎 訳	EBM 物理療法		医歯薬出版		2015
履修要件等	特になし					
研究室	3 号館 2 階 第 27 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 13:00 ～ 14:30		

科目No.	SPT05-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	運動療法学総論		担当教員	小峯 武陸		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
授業内容の要約	運動療法の基本的な知識、理論、方法を学習し、「運動療法学実習」や障害別理学療法の基礎を構築する。					
学修目標 到達目標	1. 各運動療法の対象となる障害を想起できる 2. 各種運動療法の概論について説明できる 3. 各運動療法の理論・方法について説明できる					
授業形態 授業の進め方	・講義中心に授業を進める ・本講義の受講に先立ち、解剖、運動、生理学の理解を深めておくことが望ましい ・振り返りの確認テストや確認レポートを実施する場合がある。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			60 分以上
1. 運動療法とは、運動療法の禁忌						
2. 運動の効果、二次障害の予防、トレーニングの基礎理論			前回の復習			
3. 関節の機能と障害			前回の復習			
4. 関節可動域訓とは、維持を目的とした関節可動域訓練			前回の復習			
5. 改善を目的とした関節可動域訓練（伸張訓練）			前回の復習			
6. 筋力増強訓練とは、筋力を決定する因子、筋力増強のメカニズム			前回の復習			
7. 筋力に影響を及ぼす因子			前回の復習			
8. 筋力増強訓練の基本原則、各種方法論			前回の復習			
9. 筋力増強訓練の実際			前回の復習			
10. 筋持久力訓練			前回の復習			
11. 運動制御と運動学習			前回の復習			
12. 協調性訓練			前回の復習			
13. 全身調整訓練			前回の復習			
14. 全身持久力訓練			前回の復習			
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート	%	■定期試験 70%	□その他 %
	基準等	講義の理解を深めるため、 確認テストを実施する			定期試験で講義全般の 理解度を評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	Carolyn Kisner ほか	最新運動療法大全 I 基礎編 第六版		GAIA BOOKS		2012
参考文献	特に指定しない					
履修要件等	理解度に応じて、確認テストの回数を決める。					
研究室	1 号館 4 階 第 3 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12：10～12：50		

科目No.	SCP01-1R		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	臨床ゼミ I		担当教員	古井 透・中村 美砂・肥田 光正		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必 修	1 単位	前 期 (30h)
授業内容の要約	「自己表出し、人間関係を作る力」、「分類し、系統立てる力」を身につけるため、関連施設見学・バリアフリー展への参加、さらにボランティア活動で体験した内容を踏まえて考察し、発表する。					
学修目標 到達目標	1. 理学療法士の職域、理学療法士と他職種との連携のあり方を説明することができる 2. 社会人及び理学療法士を志す学生としての基本的な振る舞いができる 3. コミュニケーション能力の向上を目指す					
授業形態 授業の進め方	本科目はリハビリテーション・理学療法の現場に臨む準備のための科目であることを理解しておくこと。臨床実習に活かせるように、積極的にグループワークに参画し他者との意見交換や交流の重要性を学び、コミュニケーション能力の向上を目指す。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる				自己紹介・コミュニケーションスキルの復習		
2. オリエンテーション、自己紹介				同級生の氏名を覚える		
3. 理学療法学専攻 1 年生の学年暦、目標				勉強の週間予定表の作成		
4. 集団活動（体育祭の準備等）を通じた学生間連携、 「バリアフリー2019」見学説明				体育祭、バリアフリー展の準備		
5. 演習：「バリアフリー2019」見学 ①				見学レポートの作成		
6. 演習：「バリアフリー2019」見学 ②						
7. 演習：集団活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク						
8. 演習：言葉遣い、身だしなみ、振舞い				演習の復習		
9. 発表課題の説明【手引き】、見学マナー				関連施設見学発表の準備		
10. 発表 「関連施設見学」①						
11. 発表 「関連施設見学」②				ボランティア活動の準備		
12. ボランティア活動の体験①						
13. ボランティア活動の体験②				学外で体験したことのまとめ		
14. バリアフリー展、関連施設見学、ボランティア活動に関する 総復習						
15. 総括及びフィードバック						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	■レポート 20 %	□定期試験 %	■その他 50 %	
	基準等	各演習の達成度を50%とする。	バリアフリー展・関連施設 見学・ボランティア活動に 関するレポート課題		関連施設見学の見学態度 を 10%、関連施設見学の プレゼンを 40%とする。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考文献		関連施設見学の手引き		大阪河崎リハビリテーション大学		2018
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習の履修は認められない。					
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No.	SCP02-1R		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	臨床実習指導 I （P T）		担当教員	古井 透 ・ 肥田 光正		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必 修	1 単位	後 期 (30h)
授業内容の要約	臨床実習に参加するにあたり、注意事項を遵守し、実習生としての基本的な知識、実習態度、医療現場における心構えなどを学ぶ。臨床見学実習での学習のポイント、視点を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 臨床見学実習の全体像を把握し、意義・目的を理解する 2. 臨床見学実習に参加するための心構え・態度を身に付ける 3. 臨床見学実習に参加するために必要な基礎知識（解剖学・生理学・運動学）を補う。					
授業形態 授業の進め方	講義・演習を主とする。演習はグループワークの形式で行い、適宜プレゼンテーションを行う。「知識の復習」では、毎回テストを行い、翌週に問題の解説レポートの提出が必須である。 本科目は、臨床見学実習に参加するための重要不可欠な科目であることを理解しておくこと。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 臨床実習指導 I オリエンテーション						
2. 臨床実習に必要な知識の復習（骨・関節）			骨・関節領域の復習解説レポート作成			
3. 臨床実習に必要な知識の復習（筋生理）			筋生理領域の復習解説レポート作成			
4. 臨床実習に必要な知識の復習（筋の起始停止）			筋の起始停止の復習解説レポート作成			
5. 臨床実習に必要な知識の復習（筋の神経支配）			筋の神経支配の復習解説レポート作成			
6. 臨床実習に必要な知識の復習（中枢神経系）			中枢神経系の復習解説レポート作成			
7. 臨床実習に必要な知識の復習（呼吸・循環）			呼吸・循環の復習解説レポート作成			
8. 臨床実習に必要な知識の復習（講義 2-7 復習）						
9. 臨床実習に必要な知識の復習（ICF）			ICF の復習			
10. 臨床見学実習について（実習の目的・位置づけ、 実習までのタイムスケジュール）			メモ帳を持参			
11. 臨床見学実習について（実習中の基本的態度、課題や提出物）						
12. 臨床見学実習について（非常事態時の対応、実習中の責務、 個人情報保護について）			学内担当教員への挨拶			
13. 臨床見学実習について（学生紹介書・実習前報告の書き方、 挨拶電話のかけ方）			実習施設調査レポート作成、実習前報告につい ての担当教員からの指導			
14. 臨床見学実習について（身だしなみの確認）			挨拶電話のタイミング等につき担当教員指導			
15. 臨床見学実習について（実習直前ガイダンス、提出物の配布）			実習の手引きの再読			
16. 臨床見学実習 報告会（実習後セミナー、礼状の書き方、 実習報告会、実習ポートフォリオについて）			礼状作成、実習ポートフォリオ作成、レジュ メ・施設情報ファイリング、			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 30%	□レポート 40 %	□定期試験 %	□その他 30 %	
	基準等	実習に必要な解剖学・運動学などの復習課題の発表内容を吟味する。	実習に必要な書類を含むレポートの提出状況や内容を吟味する		出席状況や授業態度を総合的に吟味する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
		「大阪河崎リハビリテーション大学理学療法学専攻：実習の手引き」				
参考文献		適宜配布				
履修要件等	「臨床ゼミ I」の単位取得が前提					
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No.	SCP03-1R			授業形態	実習	開講年次	1 年次	
授業科目名	臨床見学実習（P T）			担当教員	酒井 桂太・理学療法学専攻教員			
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間	
	理学療法学	臨床実習			必 修	1 単位	後 期（45h）	
授業内容の要約	見学を通して、病院・施設における理学療法の役割について理解する。対象者の障害像を認識する。対象者やスタッフに信頼される行動・態度を体験する。							
学修目標 到達目標	1. リハビリテーションや理学療法の見識、社会における理学療法の必要性や役割・専門性について理解する。 2. 学内で学んだ一部の理学療法検査・測定等を通して、積極的に対象児・者との関わりを持てるようになる。							
授業形態 授業の進め方	実地体験学習。他者との関わり合いをもつことへの積極性が大切である。実習の手引きをよく確認すること。臨床実習ですので自ら学ぶ姿勢で実習に取り組んでいただきたい。なお、実習後セミナーである各グループの実習報告会にて実習の成果を発表し、積極的にディスカッションしていただきたい。							
授業計画				授業時間外に必要な学修		60 分程度		
1 週にわたり病院・施設で見学実習を行う。実習後にセミナーにて課題発表会を行う。				毎日の実習体験をデイリーノートにまとめる。実習報告会用のレジメを A3 用紙 1 枚にまとめる。不十分な基礎知識を自己学習する。				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験	%	☑その他 100%
	基準等							実習成績と実習報告セミナー、提出物等を総合して判定する。
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年	
		「理学療法学専攻：実習の手引き第4版」						
参考文献	特に指定しない							
履修要件等	実習要件 1) を満たしていること							
研究室	1 号館 1 階 理学療法専攻長室			オフィスアワー	毎週月曜日 14：40～16：10			

科目No.	SBO01-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	作業療法学概論		担当教員	谷口 英治		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
授業内容の要約	作業療法と作業療法士を取り巻く状況と歴史や法制度を概括しつつ、作業療法の基本的概念とその対象、作業療法の流れやアプローチの概要について学修する。					
学修目標 到達目標	1. 早期より作業療法への理解に強い動機付けをもって積極的に学修に参画できる 2. 作業・作業療法・作業療法士の役割、目的を理解できる 3. 作業療法の過去、現在、未来を理解できる 4. 作業療法の関連法規を理解できる 5. 作業療法の対象と障害を理解できる 6. 作業療法の流れとアプローチを理解できる 7. 各障害領域別作業療法を理解できる 8. 対象者の立場にたった態度を身付けることができる					
授業形態 授業の進め方	初年次の早期より積極的に作業療法の理解に取り組んでいけるように、各学修課題の事前学習・当日の授業への積極的な参加、課題レポート作成等に力を尽くしてもらいたい。グループ課題による討論とプレゼンテーションがあるので、日頃よりクラス仲間との交流を図り相互信頼関係を深めていただきたい。授業全般を通して学生の能動的な授業への参加と取り組みを期待する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. オリエンテーション・作業療法の概要を知る (VTR) (講義)			VTR から作業療法とは、仕事内容をノートにまとめておくこと			
2. 作業療法とは (教科書：教と略す pp12～14)			日本の作業療法の定義、作業療法士の種々のアプローチをノートにまとめておくこと			
3. 作業療法における人と作業との関わり (教 pp15～20)			配布した資料や教科書を読み人と作業の関わりの意味を理解しノートにまとめておくこと			
4. 作業と作業療法の理解 (教 pp86)			・講義 (配布した資料) から作業の本質的な意味をノートにまとめておくこと ・グループ課題からプレゼンテーションの準備をしておくこと			
5. 治療手段としての「作業」の意味 (教 pp87～89) (学生発表 1)			配布した資料や教科書から対象者理解の視点である ICF と作業療法の評価、治療、指導、援助内容との対応を理解し、ノートに整理すること			
6. 障害とは・ICF と作業療法 (教 pp87)			・配布した資料や教科書から障がいと生活機能との関係を理解し、ノートに整理しておくこと ・グループ課題からプレゼンテーションの準備をしておくこと			
7. 作業療法の定義 (教 pp90～93) (発表 2)			・配布した資料や教科書から日本・日本作業療法士協会・諸外国の定義を理解し、ノートにまとめておくこと			

8. 作業療法の歴史（教 pp22～33）				・作業療法の歴史から現在と未来のあり方を考えること ・グループ課題からプレゼンテーションの準備をしておくこと					
9. 作業療法の法・制度（教 pp14,81,90）（発表 3）				配布した資料や教科書から作業療法士法の制約と発展を理解し、ノートにまとめておくこと					
10. 作業療法の流れ（実践過程と実施）（講義）				講義資料から作業療法の実施の流れを理解する ・グループ課題からプレゼンテーションの準備をしておくこと					
11. 作業療法の流れ（実践過程と実施）（講義）（発表 4）				講義資料から作業療法の実施の流れを理解し、評価（情報収集、面接、観察、検査測定調査）・治療計画・実施・再評価の目的、手順、統合解釈等の意義を理解すること					
12. 各障害領域別作業療法の理解 1（教 pp96～181）				・各領域（身体・精神・発達・高齢期）の作業療法の特徴、流れと方法を理解する ・グループ課題からプレゼンテーションの準備をしておくこと					
13. 各障害領域別作業療法の理解 2（教 pp96～194）（発表 5）				各領域（身体・精神・発達・高齢期、および地域）の作業療法の特徴、流れと方法を理解する					
14. 作業療法部門の管理（倫理、記録・報告、診療報酬） （教 pp290～310）				講義資料から作業療法士の職業倫理と部門管理に必須の記録・報告の意義を理解し、ノートにまとめておくこと					
定期試験（期末レポート）									
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				講義全体から理解不十分な項目や課題、内容を検証し、ノートに整理しまとめておくこと					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験	100 %	□その他	%
	基準等	講義終了後に小テスト実施		グループ課題での記録資料とプレゼンテーションの資料		講義終了後に実施した小テストより出題		授業への参加と取り組み態度	
教科書		著者	タイトル			出版社		発行年	
		長崎重信監修 里村恵子編集	「改訂第2版 作業療法学ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論」			メジカルビュー社		2015	
参考文献		二木・能登編集	標準作業療法学 作業療法学概論 第3版			医学書院		2016	
		杉原素子 編	作業療法学全書第1巻 作業療法概論第3版			協同医書		2010	
履修要件等		「ヒトは日々作業をして生活している」ことの意味を考えてください。							
研究室		1号館5階 第18研究室			オフィスアワー		毎週月曜日 16:20～17:00		

科目No.	SBO07-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	作業療法運動学 I		担当教員	南 征吾		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
授業内容の要約	身体障害分野の作業療法に必要な身体運動の基礎を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 身体運動の基礎を深めることができることを目指す 2. 作業療法に必要な身体運動機能の分析力を身につけることを目指す					
授業形態 授業の進め方	身体運動を捉えて作業療法の実践に関する根拠となる、身体構造を学んでいく。 日常生活から身体の運動の視点をもっておくこと。また、各関節について、整理／理解力を促進するために学生同士でグループワークを取り入れる。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 運動学の基礎（運動学とは）			復習：基本的関節運動を理解する			
2. 運動学の基礎（身体の基本的構造）			復習：関節の力学的側面を理解する			
3. 運動学の基礎（身体の運動）			復習：関節運動と関節周囲の組織を理解する			
4. 股関節（骨と関節構造）			復習：股関節の関節構造を理解する			
5. 股関節（筋と関節の相互作用）			復習：股関節の筋と関節の相互作用を理解する			
6. 股関節（まとめ、触診）			復習：股関節の周囲の骨と筋を理解する			
7. 膝関節（骨と関節構造）			復習：膝関節の関節構造を理解する			
8. 膝関節（筋と関節の相互作用）			復習：膝関節の筋と関節の相互作用を理解する			
9. 膝関節（まとめ、触診）			復習：膝関節の周囲の骨と筋を理解する			
10. 足関節（骨と関節構造）			復習：足関節の関節構造を理解する			
11. 足関節（筋と関節の相互作用）			復習：足関節の筋と関節の相互作用を理解する			
12. 足関節（まとめ、触診）			復習：足関節の周囲の骨と筋を理解する			
13. 歩行（歩行分析）			復習：歩行分析に必要な用語を整理する			
14. 歩行（筋と関節の相互作用）			復習：歩行時の筋収縮と関節の相互作用を理解する			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 20%	■定期試験 60%	■その他 10%	
	基準等	各授業に関する課題があり、その取り組む姿勢や提出物の内容を評価する。	各授業に関するレポートがあり、提出物の内容を評価する。	定期試験は筆記試験で実施する。	授業への参加度、定期試験の受験資格を失わない出席が必要である。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	島田智明（翻訳）	筋骨格系のキネシオロジー		医歯薬出版		2019
参考文献	塩田悦仁（翻訳）	カラー版カパンジー機能解剖学		医歯薬出版		
履修要件等						
研究室	3 号館 2 階 第 25 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00		

科目No.	SBO02-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	基礎作業学		担当教員	武井 麻喜		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必 修	1 単位	前 期（16h）
授業内容の要約	作業療法の基礎になる作業についての知識を身につける。作業療法評価学、治療学や臨床実習に繋がる基礎となる科目である。作業の持つ意味、作業が人に与える影響（身体的・心理的）などについて考えていく。					
学修目標 到達目標	1. 作業の定義が説明できる 2. 作業の分類ができる 3. 人と作業の関係を理解し説明ができる 4. 作業分析の概要を理解し説明ができる					
授業形態 授業の進め方	講義の後、テーマに基づいてグループ討論、発表を行う。 積極的なグループ討論をするように。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 基礎作業学とは、作業とは			復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
2. 作業療法における作業の分類			復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
3. 作業療法における作業の特徴			復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
4. 作業と生活（作業バランス）			復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
5. 作業と生活（ひとの生活様式）			復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
6. 作業と道具			復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
7. 作業分析（想定課題）			復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40%	□レポート %	■定期試験 60%	□その他 %	
	基準等	毎回グループ討論後のまとめを課題として評価する。		定期試験を実施する。 授業内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考文献	小林夏子・福田恵美子 編	「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学第2 版」		医学書院		2012
	山根寛	「ひとと作業・作業活動 新版」		三輪書店		2017

履修要件等	「作業療法学概論」を履修していることが望ましい。		
研究室	1号館1階 第23研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:10～13:00

科目No.	SBO03-1R			授業形態	演習	開講年次	1 年次		
授業科目名	基礎作業分析学演習 I			担当教員	嶋野 広一・水野 貴子				
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間		
	作業療法学	基礎作業療法学			必 修	1 単位	前 期 (30h)		
授業内容の要約	作業療法で用いる代表的な作業種目について、その工程や手段を学び、具体的に説明できる。実習の中で、作業に必要とされる道具・材料について学び、作業の持つ特性や人の心に与える影響を考察する。								
学修目標 到達目標	1. 具体的に作業活動（手工芸）の工程・手順を実習することで、種目ごとの特徴を説明できる 2. 道具・材料・工程について理解し、分析することができる								
授業形態 授業の進め方	実習形式なので汚れてもよい服装にて参加し、授業の邪魔になる行為があれば出席を認めない。基礎作業学を十分に理解しておくこと。								
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上			
1. 陶芸:基本的工程・土練り(嶋野)									
2. 陶芸:土練り・たたらし作り(嶋野)									
3. 陶芸:玉作り(嶋野)									
4. 陶芸:玉作り(嶋野)									
5. 陶芸:施釉(嶋野)									
6. 陶芸:施釉(嶋野)				復習：陶芸でのレポート作成					
7. 革細工:スタンピング・カービング(水野)									
8. 革細工:スタンピング・カービング(水野)									
9. 革細工:染色・かがり・仕上げ(水野)									
10. 革細工:染色・かがり・仕上げ(水野)				復習：革細工でのレポート作成					
11. 木工:基本工程・設計・採寸(嶋野)									
12. 木工:切断(嶋野)									
13. 木工:切断(嶋野)									
14. 木工:組み立て・塗装・仕上げ(嶋野)									
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)									
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	20 %	■定期試験	50 %	■その他	30 %
	基準等			種目ごとにレポートを課す。		授業内容全般についての理解度を評価する。		完成した作品を評価する。	
教科書	著者		タイトル			出版社		発行年	
	特になし		特になし			特になし		特になし	
参考文献	日本作業療法士協会 編		作業～その治療的応用～改訂第2 版」			協同医書出版社		2003	
履修要件等	基礎作業学を履修していることが望ましい。								
研究室	嶋野：1 号館 2 階 第 24 研究室 水野：1 号館 5 階 第 2 共同研究室			オフィスアワー		毎週水曜日 10：40～12：10 毎週水曜日 12：10～12：50			

科目No.	SBO04-1R		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	基礎作業分析学演習Ⅱ		担当教員	水野 貴子・嶋野 広一		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
授業内容の要約	作業療法で用いる代表的な作業活動を体験し、作業に必要とされる道具や材料、工程や技法について学び、身体・精神機能に及ぼす影響を考察する。生活で何気なく行っている作業の持つ特性を活かし、対象者に治療として適用している作業療法の面白みを実感する。					
学修目標 到達目標	1. 作業活動を体験し、作品を完成することができる 2. 作業活動ごとの特徴が説明できる 3. 運動、知覚、精神機能について作業分析ができる					
授業形態 授業の進め方	講義と作業実習を行う。 基礎作業学、基礎作業分析学演習Ⅰの復習をしておくこと。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. ボンボンマスコット：ストラップ人形 1（水野）			復習：ボンボンマスコットについてのレポート作成			
2. ボンボンマスコット：ストラップ人形 2（水野）			復習：ボンボンマスコットについてのレポート作成			
3. スプールウェビング：ミニマフラー1（嶋野）			復習：スプールウェビングについてのレポート作成			
4. スプールウェビング：ミニマフラー2（嶋野）			復習：スプールウェビングについてのレポート作成			
5. 編物（カギ針）：ミニたわし 1（嶋野）			復習：編物（カギ針）についてのレポート作成			
6. 編物（カギ針）：ミニたわし 2（嶋野）			復習：編物（カギ針）についてのレポート作成			
7. 裁縫：お手玉 1（水野）			復習：裁縫についてのレポート作成			
8. 裁縫：お手玉 2（水野）			復習：裁縫についてのレポート作成			
9. あんでるせん手芸：カゴ 1（水野）			復習：あんでるせん手芸についてのレポート作成			
10. あんでるせん手芸：カゴ 2（水野）			復習：あんでるせん手芸についてのレポート作成			
11. あんでるせん手芸：カゴ 3（水野）			復習：あんでるせん手芸についてのレポート作成			
12. 折り紙：くす玉など（嶋野）			復習：折り紙についてのレポート作成			
13. 貼り絵：くるくるピクチャー1（水野）			復習：貼り絵についてのレポート作成			
14. 貼り絵：くるくるピクチャー2（水野）			復習：貼り絵についてのレポート作成			
15. トランプ：ババ抜きなど（嶋野）、総括（水野）			復習：トランプゲームの種類とルールの把握			
成績評価 方法	項目	■課題 20%		■レポート 80%		
	基準等	各作業活動の作品を提出。作成方法についての理解度を評価する。		各作業活動の開始時にレポートを配布し、与えられた課題を講義内容の視点と絡めて考察しているかを評価する。		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	講義資料を随時配布する。					
参考文献	浅沼辰志	「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 2 作業学 改訂第 2 版」			メジカルビュー社	2015
	小林夏子ほか	「基礎作業学 第 2 版」			医学書院	2012
	澤田雄二	「作業療法学全書 第 2 巻 基礎作業学 改訂第 3 版」			協同医書出版	2009
履修要件等	「基礎作業学」「基礎作業分析学演習Ⅰ」が履修済であることが望ましい。					
研究室	1 号館 5 階 第 2 共同研究室		オフィスアワー		毎週水曜日 12：10～12：50	

科目No.	SOE01-1R		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	身体障害評価学演習 I		担当教員	武井 麻喜 ・ 嶋野 広一 水野 貴子 ・ 田崎 史江		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
授業内容の要約	人が作業する際に用いる身体機能を適切に評価することが作業療法のスタートとなる。講義では作業療法評価の基本的な考え方・枠組みを学習する。加えて健康人の生理機能の測定、形態学的測定、おもな関節の関節可動域測定を主に身体機能の基礎評価の技法についても学習する。					
学修目標 到達目標	1. 身体障害系の評価の定義と流れや目的・意義を理解し説明ができる 2. 評価計画の立案や統合と解釈について理解し説明ができる 3. 代表的な作業療法の評価の目的・手段を述べることができる 4. 臨床見学実習で対象者と接する前段階において実習生としての知識・技術・態度を習得する					
授業形態 授業の進め方	前半は、パワーポイントを使用した講義、グループ討論を実施する。後半は学生同士がペアになって実技を実施し、各評価技法の授業終了時（11 回目、13 回目、14 回目）には実技の確認テストを実施する。実技は肩や肘が出せるようなシャツ、膝が出せるような下衣（ジーンズ・スカート不可）で参加のこと。各自配布された検査器具を必要に応じて持参すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			60 分以上
1. ガイダンス、評価とは（目的）【講義／武井】＜教科書 pp3～8＞			復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
2. 作業療法と評価（評価項目・ICF）【講義／武井】＜教科書 pp9～10＞			復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
3. 作業療法と評価（評価計画、評価の手順と手段）【講義／武井】＜教科書 pp15～17＞			復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
4. 作業療法と評価（統合と解釈）【講義／武井】＜教科書 pp19＞			復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
5. 作業療法と評価（課題の抽出、治療目標）【講義／武井】＜教科書 pp19～20＞			復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
6. 記録・報告の意義と特徴【講義／武井】＜教科書 pp28～32＞			復習：配布資料を元に内容を自分なりにまとめること			
7. 中間テスト（座学テスト）						
8. 関節可動域測定 1（上肢）【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 pp72～82、pp89＞			予習：教科書 pp72～82 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			
9. 関節可動域測定 2（上肢・手指・下肢）【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 pp83～84、pp90-92＞			予習：教科書 pp83～84 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			
10. 関節可動域測定 3（下肢・頸部）【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 pp85～86、pp93～94＞			予習：教科書 pp85～86 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			
11. 関節可動域測定（頸部・体幹）【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 pp87＞			予習：教科書 pp87 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			
12. 形態計測 1（上下肢長）・握力測定・ピンチ力測定【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 pp65～71＞			復習：配布資料を元に実技の復習をすること			

13. 形態計測 2 (上下肢周径)【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 pp65～71＞				復習：配布資料を元に実技の復習をすること	
14. バイタルチェック【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 pp56～58＞				復習：配布資料を元に実技の復習をすること	
定期試験 (実技試験)					
15. 総括及びフィードバック (実技試験の解説)					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 50%	■その他 30%
	基準等	前半座学ではグループ討論後のまとめを課題として評価する。		後半実技実習分を定期試験として実技試験を実施する。	第7回目に中間テストを実施し、座学の内容についての理解度を評価する。前半の座学、後半の実技実習を総合的に評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	岩崎テル子他	「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第3版」		医学書院	2017
参考文献	佐竹勝 編	「ゴールド・マスター・テキスト 3 作業療法評価学 改訂第2版」		メジカルビュー社	2015
履修要件等		「作業療法学概論」「解剖学」「生理学」が履修済であることが望ましい。			
研究室		1号館1階 第23研究室 (武井)	オフィスアワー	毎週月曜日 12:10～13:00 (武井)	

科目No.	SOE03-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	精神障害評価学		担当教員	生水 智子		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必 修	1 単位	後 期（16h）
授業内容の要約	精神障害を持つ対象者を支援するために必要な評価法の基礎的知識について習得する。					
学修目標 到達目標	1. 精神障害領域における評価の目的と意義について説明できる 2. 精神障害領域における評価法の種類と適用について説明しできる 3. 精神障害領域における評価結果を適切に記録することができる					
授業形態 授業の進め方	教科書および資料を用いて、精神障害領域における評価について学習する。学習のする上で、意見交換の場を設定し、アクティブラーニングを行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 精神障害と評価 ― 精神的健康と病気・疾患について				予習：教科書②p3～8 を読んでおく 自身の「健康な状態」について考えておく		
2. 精神障害領域における生活を支えるために必要な評価				予習：教科書①p155～173 を読んでおく 自身の「一日の生活」について考えておく		
3. 精神障害領域における観察評価 ― 統合失調症について―				予習：教科書①p376「ウォッチングリスト」を熟読しておく		
4. 精神障害領域における面接評価				予習：教科書①p173～186 を読んでおく		
5. 精神障害領域における検査測定①（精神症状評価尺度）				予習：授業3で行った統合失調症の症状について復習しておく		
6. 精神障害領域における検査測定②（社会機能評価尺度）				予習：教科書②p486～497 を読んでおく		
7. 精神障害領域における評価記録について				予習：教科書②p28～31 を読んでおく		
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				これまでの全範囲を復習しておく		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	20 %	■定期試験 70 %
	基準等			授業期間中に課し、授業期間終了に提出		授業（資料含む）・演習を行った範囲から出題
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	山根寛	「精神障害と作業療法 新版」		三輪書店		2017
	能登真一他	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版」		医学書院		2017
参考文献	特に指定しない					
履修要件等	作業療法概論（1年次前期科目）を履修していることが望ましい。					
研究室	1号館1階 第22研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12:15 ～ 13:00		

※教科書①：山根寛「精神障害と作業療法 新版」

教科書②：能登真一他「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版」

科目No.	SOT01-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	生活環境・行為学		担当教員	高野 珠栄子		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
授業内容の要約	リハビリテーションは人間の障害構造を心身機能と構造，活動，社会活動の階層で分け，それぞれの健康を維持する技術を概念的に有している。本講義では生活を構成している動作，行為の分析について知識・体験を通して学び、生活行為がイメージできることを目標とする。					
学修目標 到達目標	1. 動作、活動、行為の概念を理解し、生活の概念を説明することができる 2. ADL・APDL の概念を理解し、説明することができる 3. 生活行為に関する医学用語を理解し、文章の中で用いることができる					
授業形態 授業の進め方	講義，演習，課題により、生活についての理解を進めていく 個々の生活を構成している要素を体験させ、想像・考えることができるように進める					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 生活環境・行為学とは（生活サイクルについて）			レポートをまとめること			
2. ADL（個人生活行為）の基礎について（教科書 pp4～13）			教科書を音読して医学用語を覚えること			
3. ADL と APDL（家庭生活行為）について（教科書 pp13～15）			同			
4. APDL と ASL（社会生活行為）について（教科書 pp15～16）			同			
5. ADL を構成する要素，グループ演習（1）（寝返り）			資料を読み、体験し、医学用語を覚えること			
6. ADL を構成する要素，グループ演習（2）（起き上がり）			同			
7. ADL を構成する要素，グループ演習（3）（立ち上がり）			同			
8. ADL を構成する要素，グループ演習（4）（移動・移乗）			同			
9. ADL を構成する要素，グループ演習（5）（片麻痺のケース）			同			
10. ADL を構成する要素，グループ演習（6）（トイレ・食事・更衣）			同			
11. ADL を構成する要素，グループ演習（6）（整容・入浴）			同			
12. ADL、APDL の量的・質的分析、ICF での考え方			資料を読み返し、概念を理解する事			
13. ADL、APDL の評価の考え方、評価方法			教科書を読み、医学用語を覚えること			
14. ADL、APDL の評価の流れと支援の実際（教科書 pp17～28）			教科書を読み返し、説明できる事			
定 期 試 験（期 末 試 験）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	☑課題・小テスト 20%	□レポート %	☑定期試験 80%	□その他 %	
	基準等	試験と合算する		6割以上		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	濱口豊太	「日常生活活動・社会生活行為学」		医学書院		2016
参考文献	石井慎一郎	動作分析		メディカルビュー		2014
	伊藤利之	「日常生活活動 ー評価と支援の実際ー」		医歯薬出版株式会社		2010
履修要件等	教科書・資料を必ず持参すること					
研究室	1 号館 5 階 第 13 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 13:00～14:30		

科目No.	SCP01-1R		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	臨床ゼミ I（OT）		担当教員	石川 健二 生水 智子		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必 修	1 単位	前 期（30h）
授業内容の要約	リハビリテーションの社会的意義を踏まえ、医療人を目指す心構えなどを学ぶ。また、臨床現場に関わる上で必要な視点を理解する。					
学修目標 到達目標	医療従事者としての基本的な対人関係スキルを身に付けることができる					
授業形態 授業の進め方	講義、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどを行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30 分以上
1. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる ①			学生委員からの課題及び準備			
2. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる ②			学生委員からの課題及び準備			
3. オリエンテーション、大学生としてのモラル、自己紹介			大学生としての規範を備える事前学修			
4. 集団活動（体育祭の準備等）を通じた学生間連携			クラス内での交流を深めておく			
5. プレゼン課題の説明【手引き】、見学マナー			関連施設見学の手引き（マナー）を通読			
6. 集団活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク ①			担任とのグループ面接への参加			
7. 集団活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク ②			体調管理に気をつけておく			
8. 関連施設見学① 見学マナー、言葉遣い、身だしなみ、振舞い			関連施設の情報を得ておく			
9. 関連施設見学② 発表準備			関連施設見学の手引き（レポートの書き方）			
10. 発表練習			関連施設見学の手引き（発表の方法）			
11. 発表			発表レジメの作成			
12. 関連施設見学のまとめ（発表の総括）			発表のときに質問された内容を調べておく			
13. 障がい者体験（福祉用具 車いす アイマスク等）			障がいについて調べる			
14. グループワーク① 他者を知ろうとする			グループ課題			
グループワーク② 年代ごとの出来事をする			グループ課題			
15. 総括及びフィードバック（全講義の振り返り）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	■レポート 20%	□定期試験 %	■その他 30%	
	基準等	関連施設見学の意欲・態度及び、発表で見学から得られた情報を伝えているか。	課題解決のためのグループで話し合われたレポートを仕上げているか	無	授業態度及び、体育祭、グループワークの貢献度等を評価	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
		関連施設見学の手引き 学生委員会から配布資料				
参考文献		参考資料配布				
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習の履修は認められない。					
研究室	石川：3号館2階 第28研究室 生水：1号館1階 第22研究室		オフィスアワー	授業終了後、随時、質問を受け付ける		

科目No.	SCP02-1R		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	臨床実習指導 I （OT）		担当教員	石川 健二 生水 智子		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必 修	1 単位	後 期 (30h)
授業内容の要約	臨床見学実習での学修効果を得るために、臨床現場の状況を捉える視点や作業療法士として求められる基本的な態度や心構えを学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 臨床実習の全体像を理解することができる 2. 臨床見学実習への心構えや態度を理解することができる 3. 臨床での作業療法に興味を持つことができる					
授業形態 授業の進め方	講義、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、関連施設見学などを行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 臨床実習の対するオリエンテーション						
2. 関連施設見学			見学施設について、ホームページなどで			
3. 関連施設見学			施設概要について調べておく			
4. 臨床実習①実習中の基本的態度・身だしなみ			実習の手引き p5～7 を熟読しておく			
5. 臨床実習②欠席・遅刻・早退、事情事態時の対応			実習の手引き p7～10 を熟読しておく			
6. 臨床実習③人間関係に関すること、実習中の責務			実習の手引き p10～11 を熟読しておく			
7. 臨床実習④個人情報の保護、健康管理			実習の手引き p12～13 を熟読しておく			
8. 臨床見学実習①実習の目標、評価表			実習の手引き p19、p42～46 を熟読しておく			
9. 臨床見学実習②実習の課題と提出物			実習の手引き p20 を熟読しておく			
10. 臨床見学実習③実習中の見学・観察のポイント			各領域の評価学の授業を復習しておく			
11. 臨床見学実習④デイリーノートの書き方、実習ノートの書き方			実習の手引き p47～49 を熟読しておく			
12. 臨床見学実習⑤報告会用レジュメの書き方			実習の手引き p20 を再読しておく			
13. 臨床見学実習前事前準備① 学生紹介書、誓約書、通勤経路報告			実習の手引き p40～41 を熟読しておく			
14. 臨床見学実習前事前準備② 挨拶電話のかけ方、礼状の書き方、評価表、経験記録への記述			実習の手引き p50～57 を熟読しておく			
15. 総括及びフィードバック（全講義の振り返り）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	■レポート 50%	□定期試験 %	■その他 20%	
	基準等	期限内の実習関連書類提出、必要事項の記載がなされているか	2・3回の関連施設見学の内容が明確に記されているか評価する	無	授業態度	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
		大阪河崎リハビリテーション大学 作業療法学専攻；実習の手引き第4版				2017
参考文献		参考資料配布				
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習の履修は認められない。					
研究室	石川：3 号館 2 階 第 28 研究室 生水：1 号館 1 階 第 22 研究室		オフィスアワー	授業終了後、随時、質問を受け付ける		

科目No.	SCP03-1R			授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	臨床見学実習（OT）			担当教員	谷口 英治 / 作業療法学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間
	作業療法学	臨床実習			必 修	1 単位	後 期（45h）
授業内容の要約	身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から 1 分野を見学する。臨床実習施設の概要、対象疾患、作業療法の実践内容を見聞、体験すると共に対象者（児）やスタッフへの対応を経験し、2 年次への学修につなげる。						
学修目標 到達目標	1. 作業療法と作業療法士の果たす役割について理解できる 2. 臨床体験を通して学修意欲（動機づけ）や作業療法に対する興味・関心を高めることができる 3. 対象者（児）やスタッフに対して責任感のある行動・態度を身につけることができる 4. 臨床実習施設の組織や作業療法部門の運営・管理の概要について理解を深めることができる						
授業形態 授業の進め方	・臨床実習にふさわしい服装で臨むこと。 ・臨床実習に準じたマナーや社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に配慮すること。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		60 分以上	
身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から 1 分野の施設で 1 週間の臨床見学実習を実施する				臨床見学実習施設の概要・方針をホームページ等で調べ、医療従事者の役割を知るため事前準備をしておくこと。臨床実習指導Ⅰでの学び、及び資料「実習の手引き」等を介して自らの実習目的・目標をもつこと。			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験	%
	基準等					■その他 100 % ① 臨床見学実習評価の結果 ② 臨床見学実習出席日数 ③ 実習内容（実習ノート、実習態度等） ④ 臨床実習指導Ⅰ・セミナーへの参加状況から総合的に評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年
	臨床実習委員会編	「作業療法学専攻：実習の手引き」 第 4 版			大阪河崎リハビリテーション大学		2017
参考文献		必要に応じて紹介する					
履修要件等	実習要件 1) を満たしていること						
研究室	各実習担当教員研究室			オフィスアワー	各実習担当教員 オフィスアワー参照		

科目No.	FPS01-1R	授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	学習・認知心理学	担当教員	伊藤 一美		
基本項目	専 攻	科 目 区 分	単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	心理学	必 修	2 単位	後 期 (45h)
授業内容の要約	【学習心理学】私たちの行動は、そのほとんどが過去の経験を通して学習されたものである。その学習がどのように形成されており、どのように私たちの日常生活に影響しているのかを学ぶ。 【認知心理学】認知心理学とは何か？ 認知というのは、英語の cognitive, cognition の訳で、認知心理学は、人間の心 (mind) を「認知系」の代表として捉え、そのふるまいや働きを広い意味での情報処理的モデルを用いて、明らかにしようという立場をとる心理学である。ここでは、人の行動や心を理解する心理学を学ぶ。				
学修目標 到達目標	【学習心理学】 1. 学習とは何かを理解する 2. 学習のメカニズムを知り、行動を分析的に捉える 3. 人間の「こころ」を学習心理学の立場から考える		【認知心理学】 1. 認知心理学の視点を理解する 2. 各テーマの内容を理解する		
授業形態 授業の進め方	授業はテキストと配布資料を使用し、演習と講義を含めて行う。 ・授業前に必ずテキストを読み、分からない用語は事項索引や辞書を使用して、調べておくこと。 ・授業後には、配布資料を使用し、復習すること				
授業計画			授業時間外に必要な学修	30 分以上	
【学習心理学】					
1. 学習とは何か 学習の定義について学び、初期学習の重要性を理解する			教科書を読んで予習・復習をすること		
2. レスポンデント条件付け 古典的条件付けについて学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
3. オペラント条件付け 道具的条件付けについて学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
4. 試行錯誤、洞察学習、般化と弁別 様々な学習の型について学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
5. 強化スケジュール オペラント条件付けにおける教科のしくみを理解する			教科書を読んで予習・復習をすること		
6. 高次条件付けと学習曲線 高次条件付けと学習の進行過程について学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
7. 学習の転移 学習の転移について学び、実習を通して理解する			教科書を読んで予習・復習をすること		
8. 学習心理学 総括			教科書を読んで予習・復習をすること		
【認知心理学】					
9. オリエンテーション 認知心理学の歴史的背景を学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
10. 知覚のメカニズム 知覚のメカニズムのうち、とくに視覚のしくみについて学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
11. 記憶のメカニズム (1) 記憶の過程 (符号化・貯蔵・検索) について学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
12. 記憶のメカニズム (2) 記憶の貯蔵・検索過程について二重貯蔵モデルを中心に学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
13. 記憶のメカニズム (3) 記憶障害について学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
14. 概念と言語 概念の構造を説明する理論について学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
15. 知識と表象 知識の表象を説明する理論について学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
16. イメージと空間の情報処理 言語以外の情報である空間の情報処理過程について学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
17. 注意と認知の制御過程 認知の制御過程である注意の機能やメタ認知について学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
18. 文章の理解 文章の理解過程について学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
19. 文章の記憶 文章の記憶のしくみについて学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
20. 思考のメカニズム 一推論一 推論のメカニズムについて学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
21. 思考のメカニズム 一問題解決一 問題解決の過程について学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
22. 思考のメカニズム 一意思決定一 意思決定の過程について学ぶ			教科書を読んで予習・復習をすること		
定期試験 (期末レポート)					
23. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)			教科書を読んで予習・復習をすること		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート	%	■定期試験	80%	■その他	10%
	基準等	課題・小テストで評価する。			定期試験にて、授業の理解度を評価する		授業への参加度や受講態度等で評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年	
	山内光哉ほか	「グラフィック学習心理学」			サイエンス社		2001	
	森敏昭 ほか	「グラフィック認知心理学」			サイエンス社		1995	
参考文献	高野陽太郎(編)	「認知心理学 2 記憶」			東京大学出版会		1995	
	太田信夫(編)	「記憶の心理学と現代社会」			有斐閣		2006	
履修要件等	特になし							
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。			

科目No.	FSL01-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	音声学		担当教員	新田 香織		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必 修	2 単位	後 期 (60h)
授業内容の要約	言語聴覚士として患者への適切な対応ができるように、子音・母音の発音の仕方を徹底的に解説する。発音時に起こる様々な現象にも言及する。実際の音声をどのような音声記号で表すかを徹底して習得させる。国家試験過去問で問題の意味や答え方のポイントなどを詳しく解説する。					
学修目標 到達目標	1. 英語・日本語の子音・母音の理解と実践ができる 2. 日本語の単語の音声記号記述ができる 3. モーラと音節の区別、アクセントとイントネーションの区別ができる					
授業形態 授業の進め方	理論と実践を組み合わせ、理解を深めるような工夫をする。毎回の復習小テスト実施、教員の解説の前に予習部分のグループワーク（ディスカッション）による確認、学生自身による説明（プレゼンテーション）などを通して、理解を促進する。受動型でなく、積極的な関わりを求める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			60 分以上
1. 音声学とは？ 第 1 章 pp.7~16			予習：プリント			
2. 英語の子音(1) 第 2 章 pp.25~51			復習：破裂音・摩擦音			
3. 英語の子音(2) 第 2 章 pp.53~72			予習：プリント			
4. 英語の母音(1) p.210			復習：破擦音、側音、鼻音、半母音、母音、			
5. 英語の母音(2) p.210			予習：プリント			
6. 音素と単音（異音）、最小対立 第 11 章 pp.157~162			復習：英語の子音、母音			
7. 音の連鎖・脱落・同化			予習：プリント			
8. 日本語の子音(1) 第 2 章 pp.86~94			復習：ひらがなの音声記号			
9. 日本語の子音(2)・母音 第 2 章 pp.86~96			予習：プリント			
10. 日本語音声記号での記述			復習：名詞のひらがなと音声記号			
11. 促音と長音 pp.84~103			予習：プリント			
12. モーラと撥音 pp.84~103			復習：50 音と他のモーラ			
13. 清音と濁音			予習：プリント			
14. 復習セッション pp.7~103			復習：英語と日本語の音声の特徴と音声記号			
15. 中間テスト：録音			予習：プリント			
16. 中間テスト：筆記			復習：未修得部分の復習			
17. 前半のリフレクション			予習：プリント			
18. 第二次調音 pp.79~83			復習：音素と異音			
19. 音節とモーラ 第 3 章 pp.97~103			予習：プリント			
20. 相補分布・自由変異 第 11 章 pp.157~162			復習：異音の条件			
21. アクセントとイントネーション 第 4 章 pp.105~135			予習：プリント			
22. 鼻母音化、母音の無声化 p.94, p.83			復習：アクセント、イントネーション、鼻母音			
23. 日本語音素・異音復習、国家試験対策(1)			予習：プリント			
24. 国家試験対策(2)			復習：国家試験問題(1)(2)			
25. 国家試験対策(3)			予習：プリント			
26. 国家試験対策(4)			復習：国家試験問題(3)(4)			
27. 総復習 pp.7~162, p.210			予習：			
28. 記述式復習			復習：国家試験問題(1)(2)(3)(4)			
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
29. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）(1)						
30. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）(2)						

成績評価方法	項目	■ 課題・小テスト 50 %	□レポート %	■ 定期試験 40 %	■ その他 10 %
	基準等	毎回の予習チェック、毎回の小テスト、中間試験により理解度を確認。60%以上を合格とする。		記述式とマーク式を併用するものと、マーク式のみの2種類の期末試験となる。原則60%以上の正答率。	ディスカッションや発表への参加度を考慮する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	斎藤純男	「日本語音声学入門」		三省堂	2013
参考文献	町田健（編）	「日本語音声学のしくみ」		研究社	2012
履修要件等					
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	SDS01-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	言語聴覚障害概論 I		担当教員	木村 秀生		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論		必 修	1 単位	前 期 (30h)
授業内容の要約	言語聴覚障害の概略と言語聴覚士の職務内容、社会的責任を理解する。					
学修目標 到達目標	1. 人間のコミュニケーションの特質が理解できる。 2. 言語聴覚障害学に関する基礎的理解ができる。 3. 医療従事者としての基本的態度を身につける。					
授業形態 授業の進め方	座学の他に一部実技も実施する。アクティブラーニングを通じてテーマに対する積極的な意見交換や意欲的・自主的な学習態度を養う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 話せない・聞こえない・食べられないとはどういうことか			講義内容を復習しノートにまとめる			
2. 言語聴覚士とは何か（私たちは何を学んで行こうとしているのか）			講義内容を復習しノートにまとめる			
3. 言語聴覚障害学の歴史（誰が始めたこの仕事）			講義内容を復習しノートにまとめる			
4. 言語とコミュニケーションについて			講義内容を復習しノートにまとめる			
5. なぜ声が出るのか（発声発語の話）			講義内容を復習しノートにまとめる			
6. なぜ聞こえるのか（聴覚の話）			講義内容を復習しノートにまとめる			
7. なぜ食べられるのか（摂食・嚥下の話し）			講義内容を復習しノートにまとめる			
8. 発達と老化について（人は生まれ、育ち、老いる）			講義内容を復習しノートにまとめる			
9. 言語聴覚士の臨床 1（人に触れてみる・口の中を見てみる・実技）			講義内容を復習しノートにまとめる			
10. 言語聴覚士の臨床 2（舌圧子・ペンライトを使ってみよう・実技）			講義内容を復習しノートにまとめる			
11. 言語聴覚士の臨床 3（問診・面談・・・患者さんの気持ち）			講義内容を復習しノートにまとめる			
12. 言語聴覚士の臨床 4（検査・評価・訓練）			講義内容を復習しノートにまとめる			
13. チームアプローチ（ひとりでできること・できないこと）			講義内容を復習しノートにまとめる			
14. 関連法規について（どんな仕事にも法的枠組みがある）			講義内容を復習しノートにまとめる			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）			講義内容の復習			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%		□その他 %
	基準等			講義中に配布する資料の内容から出題し理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	倉内紀子ほか	「言語聴覚障害総論 I」		建帛社		2012
参考文献	毛束真知子	「絵でわかる言語障害」		学研		2013
	藤田郁代ほか	「言語聴覚障害学概論」		医学書院		2010
履修要件等						
研究室	1 号館 5 階 第 16 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 14:40～16:10		

科目No.	SDS02-1R		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	言語聴覚障害概論Ⅱ		担当教員	木村 秀生		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論		必 修	1 単位	後 期 (30h)
授業内容の要約	・言語聴覚障害および摂食嚥下障害とそのリハビリテーションについての概要を学ぶ。 ・言語聴覚障害のある方や家族とどのように関わるか、関連職種とどのように連携するかなど、今後の臨床活動の基本的な考え方を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 言語聴覚障害および摂食嚥下障害とそのリハビリテーションについての概要を理解する。 2. 言語聴覚障害のある方の生活・心理・社会状況について理解する。 3. 臨床活動全般に必要な配慮や基礎的知識を習得する。					
授業形態 授業の進め方	・言語聴覚学専攻の教員が各自の専門分野を分担して講義する。 ・今後、上位学年での更に高度な専門各分野の学習を進めていく為に必要な基礎的知識、基本的視点を確実に習得されることを期待する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 小児聴覚障害 1【廣瀬】			講義内容の復習			
2. 小児聴覚障害 2【廣瀬】			講義内容の復習			
3. 成人聴覚障害 1【馬屋原】			講義内容の復習			
4. 成人聴覚障害 2、視覚聴覚二重障害【馬屋原】			講義内容の復習			
5. 言語発達障害 1 (知的障害)【高橋】			講義内容の復習			
6. 言語発達障害 2 (LD、AD/HD、広汎性発達障害)【高橋】			講義内容の復習			
7. 言語発達障害 3 (脳性麻痺、重複障害)【木村】			講義内容の復習			
8. 拡大・代替コミュニケーション機器・特別支援教育【木村】			講義内容の復習			
9. 構音障害【高橋】			講義内容の復習			
10. 音声障害、吃音【高橋】			講義内容の復習			
11. 嚥下障害 1 (成人)【言語聴覚学専攻教員】			講義内容の復習			
12. 嚥下障害 2 (小児)【木村】			講義内容の復習			
13. 高次脳機能障害【芦塚】			講義内容の復習			
14. 失語【芦塚】			講義内容の復習			
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)			講義内容の復習			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%
	基準等					□その他 %
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	大森孝一 ほか	「言語聴覚士テキスト 第3 版」		医歯薬出版		2018
参考文献	毛束真知子	「絵でわかる言語障害 第2 版」		学研メディカル秀潤社		2013
履修要件等	言語聴覚障害概論Ⅰが履修済みであることが望ましい。					
研究室	1 号館 5 階 第 16 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 9：00～9：30		

科目No.	SHD01-1R		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	聴力検査法（含演習）		担当教員	馬屋原 邦博		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必 修	1 単位	後 期（30h）
授業内容の要約	聴覚障害の障害状況を把握するために臨床で使われている検査法を知り、実際に使えるように技術を身に付ける。					
学修目標 到達目標	1. 標準純音聴力検査が実施できる 2. 語音聴力検査が実施できる 3. その他の主な聴覚検査が実施できる					
授業形態 授業の進め方	各検査についての講義および検査機器を扱いながら各種検査の実技を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 耳の構造と機能（言語聴覚士テキスト pp.74～78）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
2. オージオメーターとその構造、保守、点検、および取扱い（教科書 pp.36～39）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
3. 標準純音聴力検査（気導聴力検査）（教科書 pp.44～49）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
4. 標準純音聴力検査（気導聴力検査）（教科書 pp. 44～49）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
5. マスキングについて（教科書 pp.52～56）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
6. 標準純音聴力検査（骨導聴力検査）（教科書 pp.49～52）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
7. 標準純音聴力検査（まとめ）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
8. 自記オーディオメトリー（教科書 pp.57～62）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
9. 閾値上聴力検査（SISI）（教科書 pp.62～68）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
10. 語音聴力検査（語音了解閾値検査）（教科書 pp.69～80）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
11. 語音聴力検査（語音弁別検査）（教科書 pp.80～84）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
12. インピーダンス・オーディオメトリー（教科書 pp.85～95）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
13. 聴性誘発反応—他覚的聴力検査（教科書 pp.110～121）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			

14. 乳幼児聴力検査 (教科書 pp.129～139)				教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること	
定 期 試 験					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)					
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %	☒ レポート 20%	☒ 定期試験 80%	☐ その他 %
	基準等		オーディオグラムの作成	筆記試験で授業内容全般についての理解度を評価する。	
教科書		著者	タイトル		出版社
		立木孝 (監修)	「聴覚検査の実際 改訂 4 版」		南山堂
参考文献		大森孝一ほか	「言語聴覚士テキスト 第 3 版」		医歯薬出版
履修要件等					
研究室		1 号館 5 階 第 19 研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12 : 10～13 : 00	

科目No.	SCP01-1R		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	臨床ゼミ I （S T）		担当教員	芦塚 あおい / 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必 修	1 単位	前 期（30h）
授業内容の要約	「自己表出し、人間関係を作る力」を身につけるため、3 施設の関連施設見学で体験した内容を踏まえて考察し、発表する。					
学修目標 到達目標	1. グループ活動において積極的にコミュニケーションをとることができる 2. 適切なプレゼンテーションをすることができる 3. 社会人として及び言語聴覚士としての基本的な振る舞いができる 4. 言語聴覚士の職域を説明することができる					
授業形態 授業の進め方	2 年生以降の臨床実習に活かせるように、積極的にグループワークに参画し、学ぶことが望まれる。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる ①						
2. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる ②						
3. オリエンテーション、自己紹介						
4. 集団活動（体育祭の準備等）を通じた学生間連携						
5. プレゼン課題の説明【手引き】、見学マナー						
6. 集団活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク①						
7. 集団活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク②						
8. 発表課題の説明【手引き】、見学マナー						
9. 関連施設見学の発表準備						
10. 発表の練習			予習：発表に向けた練習を行う			
11. 発表						
12. 言語聴覚士の職業像（ビデオ視聴及びレポート作成）						
13. 発達・コミュニケーションを支援する遊び（講義・演習）						
14. グループワーク：発達・コミュニケーションを支援する遊び（演習）						
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	□レポート %	□定期試験 %	■その他 50%	
	基準等	授業内で課題・小テストを行い各演習の達成度を評価する。			関連施設見学の見学態度を評価する（10%）。 関連施設見学後のプレゼンを評価する（40%）。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考文献		関連施設見学の手引き		大阪河崎リハビリテーション大学		2018
	藤田郁代	「言語聴覚障害学概論」		医学書院		2010
履修要件等						
研究室	3 号館 2 階 第 30 研究室(芦塚)		オフィスアワー	各教員 オフィスアワー参照		

科目No.	SCP02-1R		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	臨床実習指導 I （S T）		担当教員	芦塚 あおい / 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必 修	1 単位	後 期（30h）
授業内容の要約	実習に向け、日本語力向上と臨床における観察の技術向上に努める。 ST の役割について理解する。					
学修目標 到達目標	1. 基礎的な文章読解および文章表現（まとめ、考察）ができる 2. ST の役割について理解し、臨床における観察結果を記録することができる					
授業形態 授業の進め方	半期ごとに 1 と 2 を行う。 2 年生以降の臨床実習を意識して、積極的に取り組むことが望まれる。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. オリエンテーション						
2. 文章読解および表現（まとめ・考察）①						
3. 文章読解および表現（まとめ・考察）① 添削後再考						
4. 文章読解および表現（まとめ・考察）②						
5. 文章読解および表現（まとめ・考察）② 添削後再考						
6. 文章読解および表現（まとめ・考察）③						
7. 文章読解および表現（まとめ・考察）③ 添削後再考						
8. まとめ						
9. 臨床における ST の役割について ①（チーム医療の一員としての						
10. 臨床における ST の役割について ②（ST と患者との関わり）						
11. 臨床における ST の役割について ③（ST と家族や周囲の人との						
12. 臨床における観察と記録の実践 ①（ブローカ失語症例 1）						
13. 臨床における観察と記録の実践 ②（ブローカ失語症例 2）						
14. まとめ						
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	■レポート 50 %	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	授業内に、課題・小テストを行い評価する。	グループワークを行い、課題を評価する。		発表を行い評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
		特に無し				
参考文献		特に無し				
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床実習概論の履修は認められない。					
研究室	3 号館 2 階 第 30 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12：10 ～ 13：00		

科目No.	SCP03-1R		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	臨床実習概論（含演習）		担当教員	芦塚 あおい / 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必 修	1 単位	後 期（16h）
授業内容の要約	・ 定型発達を知ることにより、発達に障害を持つ子どもへの支援の在り方を学ぶ ・ 小児の発達支援施設における役割、多職種間の連携のあり方を知る					
学修目標 到達目標	1. 定型発達の子どもの成長過程が説明できる 2. 保育所、児童福祉施設の役割を説明することができる 3. 多職種の業務内容を理解し、連携のあり方を説明することができる					
授業形態 授業の進め方	参加型の見学実習 これまで習ったことを理解した上で子どもや支援者を観察する。観察するときは、業務の支障にならないように、そして社会人としての態度で臨む。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		60 分以上
1. 子どもの発達心理学 1						
2. 子どもの発達心理学 2						
3. 子どもの発達を支援する福祉制度				予習：保育所の見学・参加準備		
4. 保育所の見学・参加（2 歳児）				予習：保育所の見学・参加準備		
5. 保育所の見学・参加（3 歳児）				予習：保育所の見学・参加準備		
6. 保育所の見学・参加（4 歳児）				予習：施設の見学・参加準備		
7. 児童福祉施設の見学（療育場面）				復習：レポート作成		
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■小テスト 10%	■レポート 50%	□定期試験 %	■その他 40%	
	内容				参加態度	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考文献	廣瀬肇監修	「言語聴覚士テキスト 第2 版」		医歯薬出版		2011
履修要件等	実習要件 1) を満たしていること					
研究室	3 号館 2 階 第 30 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12：10 ～ 13：00		

科目No.	SRP06-1E	授業形態	演習	開講年次	1 年次～
授業科目名	地域支援学実習	担当教員	久利 彩子 ・ 今井 亮太		
基本項目	専 攻	科 目 区 分	単 位 数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	選択必修	1 単位	前 期 (30h)
授業内容の要約	学外の組織と連携し、当該組織の主に地域における移動についての問題解決に主体的に関与する。 学外の組織と連携して一定の成果物を作成し、かつ、関与した事象に関する学外への情報発信を行う。				
学修目標 到達目標	1. 地域生活に重要な視点について、障がい者の視点から考えることができるようになる。 2. 世代間や異職種間の交流を通じ、問題解決能力とコミュニケーション能力を育む。 3. 関与した事象に関する学外への情報発信スキルを育む。				
授業形態 授業の進め方	「地域支援学実習」は、ディスカッションや本学地域周辺でのフィールドワークを行う。また、得られた情報を集約して、第三者に伝える資料も作成する。学外の組織と連携し、当該組織の問題解決に主体的に関与する。通常授業時間以外（土曜日）に開講予定。				
授業計画			授業時間外に必要な学修	30 分以上	
(第 1 日目)			授業中の自らの行動を振り返り、次の授業のためにどのようにしたらより良い内容となるか、しっかり考えること。		
1. オリエンテーションと学内演習（トイレチェックシート作成）					
2. フィールドワーク 1（学内トイレチェック、発表）、フィールドワーク 2 の計画					
3. フィールドワーク 2-1（貝塚駅周辺、市役所前周辺のトイレチェック①、情報発信することについて、施設様への説明と同意）					
4. フィールドワーク 2-2（貝塚駅周辺、市役所前周辺のトイレチェック②、情報発信することについて、施設様への説明と同意）					
5. 学内演習（フィールドワーク 2 のまとめと、フィールドワーク 3 の計画）					
(第 2 日目)					
6. フィールドワーク 3-1（近義の里周辺、石才周辺のトイレチェック①、情報発信することについて、施設様への説明と同意）					
7. フィールドワーク 3-2（近義の里周辺、石才周辺のトイレチェック①、情報発信することについて、施設様への説明と同意）					
8. 学内演習（フィールドワーク 3 のまとめと、成果物作成計画）					
9. 学内演習（泉華祭発表準備①）					
10. 学内演習（泉華祭発表準備②、途中経過発表）					
(第 3 日目)					
11. 学内演習（泉華祭発表準備③、成果発表）					
12. 学内演習（フィールドワーク 4 の計画）					

13. フィールドワーク 4 (学内の車いすユーザのための動線確認)					
14. 学内演習 (フィールドワーク 4 のまとめ)					
学内演習 (授業のまとめ)					
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %	☐ レポート %	☐ 定期試験 %	☐ その他 100 %
	基準等				試験は実施しない。授業への参加状況や取り組み姿勢などを総合的に評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	特に指定しない				
参考文献	特に指定しない				
履修要件等	開講日は教員と履修学生とで調整・決定する。決定した開講日であっても、天候によっては中止する場合がある。学外の組織と協調して授業を進行する。世代間交流や異職種間交流がある。気配り目配り心配りがとても重要である。物事への探究心も必須。泉華祭で成果発表を行う。交通費の一部は大学が支援する。				
研究室	久利：1 号館 5 階 第 9 研究室 今井：1 号館 5 階 第 3 共同研究室		オフィスアワー	久利：毎週火曜日 12：20～12：50 今井：	